京田辺市幼稚園・保育所(園)・認定こども園など幼児期の教育と 小学校教育の円滑な接続のための

幼小接続カリキュラム

幼小接続ファイル



京田辺市教育委員会
京田辺市幼小接続カリキュラム作成委員会

目次

1	はじめに	••••1
2	接続期のとらえ方	••••3
3	何を接続するのか ~接続期に育みたい力	
	「4つの視点」~について	• • • • 6
4	カリキュラムの構成 ~ どう接続するのか ~	
	(1) 大カリキュラム	• • • • • 8
	(2) 中カリキュラム	• • • • • • 10
	(3) 幼児期の教育と小学校教育の接続を進める3つのカリ	リキュラム
		•••••11
5	資料	• • • • • • • 22
6	おわりに	••••62

1 はじめに

平成 27 年度より幼稚園・保育所・認定こども園、保育所型認定こども園の特性を活かした良質かつ適切な教育・保育、子育て支援を総合的に提供する体制を整備することを目的とした「子供・子育て支援新制度」が始まりました。

平成 24 年に文部科学省が行った調査によると、ほとんどの地方公共団体が幼小接続の重要性を認識しています(都道府県 100%、市町村 99%)。その一方で、幼小接続の取組は十分実施されているとはいえない状況(都道府県 77%、市町村 80%)が未実施であり、その理由として、「接続関係を具体的にすることが難しい」(52%)、「幼小の教育の違いについて十分理解・意識していない」(34%)、「接続した教育課程の編成に積極的ではない」(23%)などがあげられています。

そういった現状を踏まえて、小学校新学習指導要領には幼児期と小学校教育の接続 の重要性が以下のように示されています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」また、「低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても活かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育においても活かされるようにするなど。教科間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図れるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各

教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」とあります。

こういった新学習指導要領に記された背景から、本市においても幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して、幼小接続カリキュラムを作成することにしました。このカリキュラムにより幼児期に資質・能力を育む体験的・総合的な学びが、生活科「スタートカリキュラム」等を通じて低学年における各教科等の「見方・考え方」につながり、3年生以降の社会、理科、総合的な学習の時間等につながっていくと考えます。

京田辺市では幼小接続カリキュラムの作成に向けて、幼稚園・保育所の教諭・保育 士と小学校の教諭によるワーキングチームを立ち上げ、1年をかけて意見交換や協議 を重ねてまいりました。

今後、それぞれの立場でご活用いただき、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供 たちに育むための一助となることを願っています。



2 接続期のとらえ方

(1) 接続期における教育・保育の重要性について

平成 30 年度の改訂では幼児期の教育と小学校教育の接続期における教育が重要視されています。幼稚園・保育所(園)の幼児期の教育を小学校教育の先取り教育と捉えるのではなく、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすることが必要です。そのためにも何より幼児期の学びと育ちに対する理解を前提として、児童が安心して小学校生活送り、自らの力を発揮しながら主体的な学習者として育っていく過程を作り出すことが重要です。

(2) 京田辺市の状況について

本市では小学校 9 校、公立幼稚園 8 園がほぼ隣接し、連携行事等も充実して行われています。また、公立保育所も 4 ヶ所、私立幼稚園・幼児園が 3 園、私立保育園が 3 園あり、幼稚園・保育所(園)及び幼児期の教育が充実しています。年間を通して幼稚園教諭と保育士の合同研修会と幼稚園と小・中学校の教諭の研修会が行われており、互いの保育・教育を学ぶことができます。



(3) 接続期のとらえ方

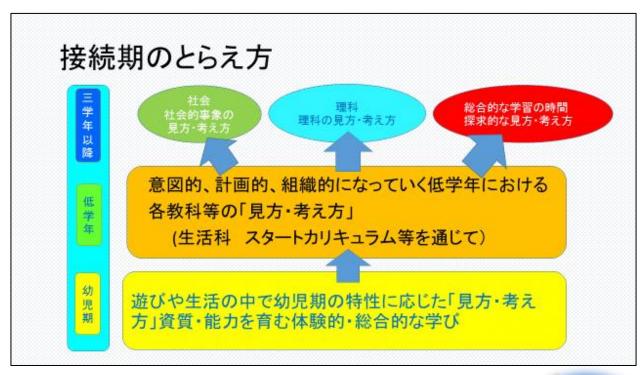
円滑な接続は、幼稚園・保育所(園)と小学校の教育の違いを理解することが大切です。子供の発達の違いから教育課程の構成や指導方法等、様々な違いがみられますが、子供の育ちと学びは、幼児期と就学後ではっきり分かれているものではありません。幼児期の教育と小学校教育の違いと連続性を調和させ、何をどのように接続させていくのかを考えていくことが大切です。

幼児期に適切な環境の中で培った遊びへの興味関心、意欲は、就学後の学習意欲や 豊かな人間関係につながります。

幼児期の教育との連携や接続を意識した「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」については生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とし、「スタートカリキュラム」の具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組む「スタートカリキュラム」とする必要があります。

また、社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする各教科等への接続を明確にすること。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成をめざす「資質・能力」や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要です。

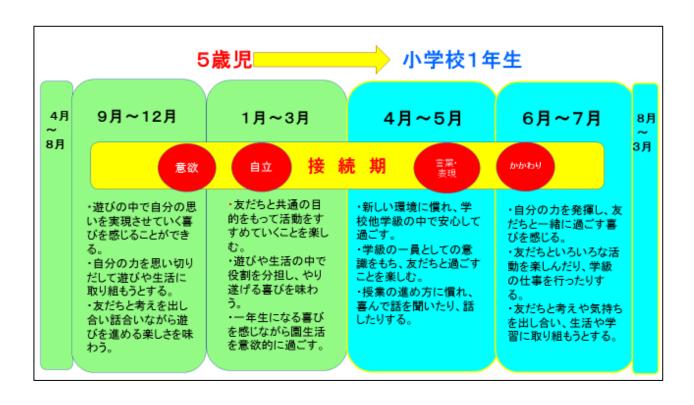




本市においては、5歳児の9月から小学校1年生の7月までを4つに



分けて接続期とし、接続期に育みたい力「4つの視点」について示しました。



3 何を接続するのか ~接続期に育みたい力「4つの視点」~について

- (1) 全国学力・学習状況調査より明らかとなった本市の課題および特に育みたい力
 - ア 自己肯定感を高め、将来を展望する力
 - イ 主体的に学習に取り組む意欲や習慣
 - ウ 社会への関心や関わり
 - エ 豊かな言語能力(語彙と表現力)
 - オ 情報を活用し(他者や図書、ICT)深く考える力

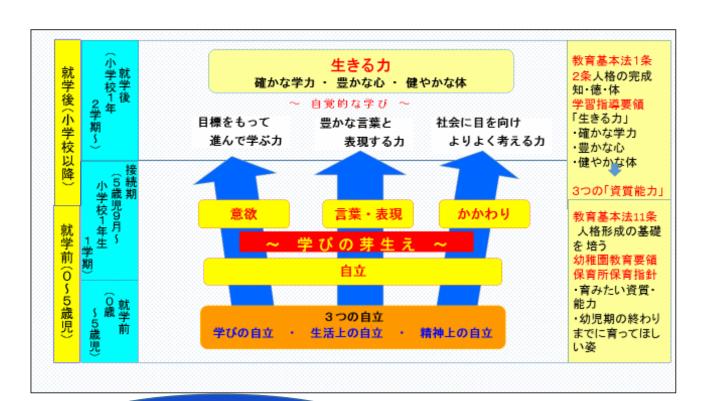


(2) 本市学校教育で育む3つの「資質・能力」

- ア「知識・技能」の基礎
 - ⇒ 豊かな言葉と表現する力
- イ「思考力・判断力・表現力等」の基礎
 - → 社会に目を向けより良く考える力
- ウ「学びに向かう力・人間性等」
 - → 目標をもって進んで学ぶ力



接続期に「**自立」「意欲」「言葉・表現」「かかわり**」の4つの視点を大切にしながら指導することが、**3つの「資質・能力」**の育ちにつながるものと考えます。



先輩先生からの ワンポイントアドバイス!

日常の遊びに中にある学びの芽生えを意識しながら、保育をしましょう

子供にとっては、「楽しいから遊んでいる」のですが、それにはねらい達成のための多くの環境・援助・かかわりがあります。楽しいから繰り返して遊んだり、挑戦したりするのです。子どもはその中で体験を重ね、様々な事を「学び」につないでいます。幼児期の保育の仕方と小学校の教育の仕方は違います。形態や教科を真似るのでなく幼児期にふさわしい方法で保育をしましょう。

4 カリキュラムの構成 ~ どう接続するのか ~

(1) 大カリキュラム

まず、接続期を大きく見通してみましょう。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を「4つの視点」で再構成しています。縦に見るとその時期の子供の姿がイメージできます。横に見ると子供の姿の変化をイメージすることができます。

ア 保・幼・こども園と小学校が共有する10の姿





イ 接続期

4つの視点に基づき、子供の姿を表した10の姿を共有してみましょう。





(資料1を参照)



(2) 中カリキュラム

指導がイメージしやすいように各期の保育・教育で大切にしたいことを

「テーマ」、「ねらい」と表しています。幼児・児童の姿と合わせて指導をイ

メージしましょう。(中カリキュラムより抜粋 資料2を参照)



ねらい

- ○遊びの中で自分の思いを実現させていく喜びを感じる
- ○自分の力を思いきり出して遊びや生活に取り組もうとする
- ○友達と考えを出し合い話し合いながら遊びを進める楽しさを味わう

幼児の姿

☆友達と相談しながら自分達で遊びの場や内容を決め、自分の思いを出 0 し、相手の思いも受入れながら遊びを進めていく面白さを感じるようになってくる。

☆大きな行事を経験したことが自信となり、いろいろなことに積極的に取り 組むようになる。また、互いに認め合い仲間意識が深まる。

☆落ち葉や木の実を集めたり、名前に関心をもったり、使って遊んだりする ことを通して自然物に対して積極的に働きかけ、数量の感覚を育んだり、生 活や遊びに取り入れていこうとしたりする姿がみられる。

☆自分の考えと友達の考えの違いに気付き、折り合いをつけながら一緒に行動するようになる。

	4つの視点	◇環境作り	※保育者・指導者の関わり	活動・行事
自立				
意欲			各期の姿を育むための指導の行	留意点を
言葉			4つの視点に分けて記している	ます。保
·表現			育・単元を構成する時に子供の	の実態に
カッカン			合わせ具体化しましょう。	
わり				

(3) 幼児期の教育と小学校教育の接続を進める 3つのカリキュラム

- ア 「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の作成
- イ 「生活科カリキュラム」の改善
- ウ ねらいを明確にした交流体験活動

本市では、新学習指導要領総則に則り、小学校に入学した児童がスムーズに学校 生活へ適応していくための「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の 作成と、幼児期における遊びを通した総合的な学びを他教科等の学習へつなげてい く「生活科」の工夫改善、これまでにも行われている幼小の「交流」教育の充実を 3つの柱に、幼小の接続を推進していきます。



ア 「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の作成

(a) 「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」のねらい

子供が、幼稚園・保育所(園)・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を保・幼・小が工夫することにより、入学した児童に「明日も学校に来たい」という意欲をかき立てます。

たくさんの園から入学している、友達がいない子、経験したことのない生活… 子供達は不安もいっぱい!!



一人一人の子供が 安心感をもてるよ うにしましょう。

幼児期には自発的な遊びが中心

各教科等の学習に円滑に接続をし、学習に意

欲的に取り組めるように、自発性をベースにした 学習、経験に基づく学習へ移行させましょう



先生とつながる、友達とつながる。そして徐々に集団を形成していく!





学習や生活の基盤となる 学級集団をつくり ましょう

(b)スタートカリキュラム作成上の留意点

一人一人の子供の成長の姿から編成する。

幼稚園・保育所等の先生と 意見交換をしたり、要録等 を活用したりしましょう!



子供の発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫する。



この時期の発達の特徴を踏まえ、20分や15分程度のモジュールで時間割を構成したり、活動性のある学習を取り入れたりしましょう。

生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図る。

自らの思いや願いの実現に 向けた活動をゆったいとした 時間の中で進めていきましょう。



安心して自ら学びを広げる学習環境を整える。



子供が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を整えましょう。

(資料3、4を参照)

先輩先生からの ワンポイントアドバイス!

スムーズな接続って何だろう?

保育所(園)・幼稚園を卒園し、入学してくる子供達は、小学校入学への喜びと 期待、そしてちょっぴりの不安も抱いていると思います。その期待や不安っ て?

やはり小さい子供なりに小学校へ行ったら「勉強をするんだ!」「お兄ちゃん、お姉ちゃんになるんだ」「しっかりしなくちゃ」という気持ちで満ちあふれているからでしょう。ある意味それは私達、教師や大人が植え付けていることかもしれません。

幼児期でたくさんの遊びを通して培った「学びの芽生え」を小学校のスタートでうまく引き継ぎ、「自発的な学び」へとつなげていくためにも、小学校の先生も保育所(園)・幼稚園の子供達の遊びの様子を是非とも参観する機会があるとよいですね。とっても勉強になりますよ。

(c)スタートカリキュラムの作成

作成上の留意点

- ・1時間目の始めに、幼児期の教育でなじんだ活動を毎日帯状で取り入れることで、楽しく安心して遊びや生活が送れるようにする。
- ・45分1単位という考えではなく、生活科を中心とし、子供たちの気付きや意欲を大切にした授業を展開できるようにする。
- ・学校探検を通して、学校の施設に触れさせたり、様々な先生と出会わせたりすることで、小学校生活への円滑な導入を図る。

教師の関わり

- ・授業や生活の中で、幼児期の教育での遊びの要素を取り入れながら活動し、緊張感を和らげながら楽しめるようにする。
- ・一日の学校生活の流れがわかり、生活に見通しがもてるような掲示物を工夫する。
- ・幼、保との引き継ぎを基に個々の学校生活の様子等に気を配り、実態把握と共通理解を行う。

作成上の留意点

- ・先週に引き続き、朝学習に幼児期の教育でなじんだ活動を取り入れることで、楽しく安心して遊びや生活が送れるようにする。
- ・1時間目には、歌や音読などで元気に一日を始められるようにする。
- ・音楽や国語、生活科など様々な教科で、新しい友達と触れ合う機会を多く設定する。

2週目

週目

教師の関わり

- ・一日の流れの見通しがもてるような工夫によって子供たちの不安を取り除く
- ・授業だけでなく休み時間の子供たちの様子にも目を向け、コミュニケーションをとったり、一緒に遊んだりすることで不安感を取り除くようにする。
- ・少しずつ教科学習に向かう気持ちや姿勢を意識させる。
- ・グループ学習やペア学習など学ぶ形態を工夫し、主体的に学習に向かったり、新しい友達のことを知ったりすることができるようにする。

作成上の留意点

- ・小学校生活のルールや話の聞き方などについて再確認しながら、45分の授業に少しずつ慣らしていく。
- ・朝学習は幼児期の教育でなじんだ活動、1時間目にひらがな学習というように、毎日帯状にパターン化することで、一日の流れをつかみ、見通しをもって安心して過ごすことができるようにする。

教師の関わり

- ・グループ学習やペア学習など学ぶ形態を工夫し、主体的に学習に向かったり、新しい友達のことを知ったりすることができるようにする。
- ・配慮や支援が必要な児童についてはきめ細かに観察し、適切に支援を行う。
- ・家庭訪問や日々の連絡等を通して、家庭での生活の様子を把握すると共に、学校生活の様子を知らせるなど、日常的に連携する。

作成上の留意点

4 调

3週目

- ・45分の時間割とするが、児童のペースに合わせた弾力的な時間配分を心がける。
- ・疲れが予想される午後は、ゆっくり過ごしたり、体を動かしたりして気分転換が図れたりするような活動を取り入れる。

教師の関わり

- ・授業時間だけでなく、休み時間も人間関係が広がるように、全員遊び等を取り入れる。
- ・学校のルールやきまりを繰り返し、丁寧に指導する。

さあ、子供の実態をみて計画を立てみましょう!

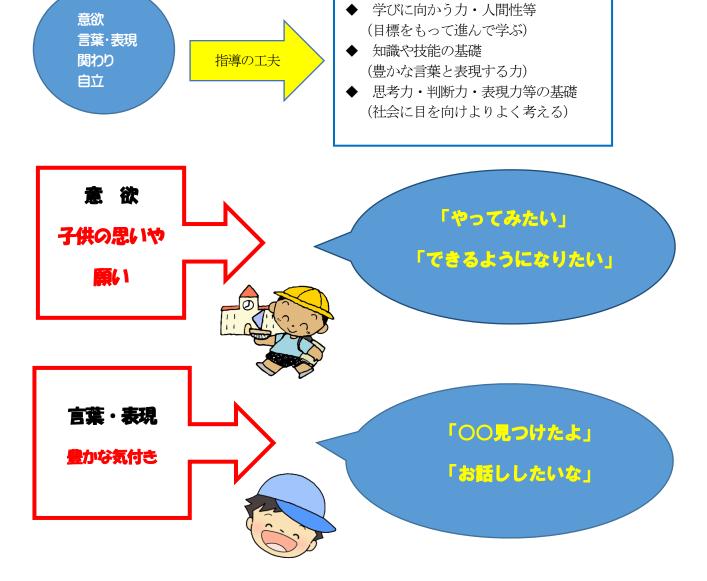
	作成上の留意点
_	
1 週 目	教師の関わり
目	今人の中心力夫が、たり
	作成上の留意点
2	#IAT A COLUM
2週目	教師の関わり
	作成上の留意点
3	
3 週 目	
	教師の関わり
	作成上の留意点
4 週 目	
目	#IAT A COLUM
	教師の関わり

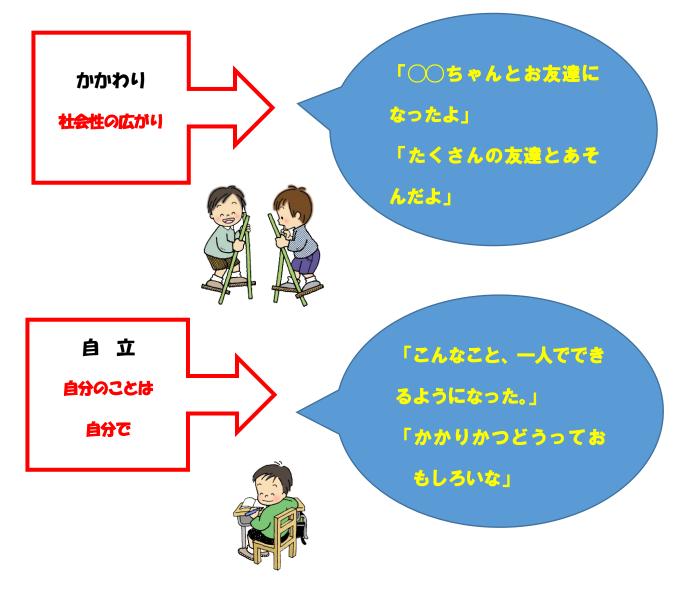
イ 生活科カリキュラムの改善

新学習指導要領総則では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮することが求められています。幼児期の学びと育ちを土台とし、小学校での自覚的な学びへ向かっていけるよう、生活科を核として楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切にし、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが求められています。

(a) 資質・能力の育成に向けた指導の充実・改善

4つの視点を意識した指導により、資質・能力を育成していく。





(b)指導計画の作成・単元の構想(新学習指導要領 生活科解説より)

☆作成(構想)時の配慮点

生活科においては、一人一人の思いや願いから活動や体験をし、対象に直接関わることで感じ考えることを大切にする。そして、それらを表現することで整理を加えていき、学習の潜在的な価値を現実のものにしていく。その際、教師の適切な指導によって、児童中心の学習を進めていくには、特に以下の三つのことに配慮する必要がある。

- ①具体的な活動や体験が十分にできる時間を保障すること
- ②主体的な活動の広がりや深まりを可能にする空間的な視点をもつこと
- ③学習の対象にじっくりと安心して関わることのできる心理的な余裕をもつこと

☆生活科の学習課程

生活科においては、一連の学習活動の「まとまり」としての単元の中で、体験活動と表現活動とが繰り返されることで、児童の学びの質を高めていく。活動や体験を行うことが前提ではあるが、見方・考え方を生かして、学年らしい思考や認識や意欲等を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視する必要がある。活動や体験は、教師の指示からではなく、児童の思いや願いから始まらなければならない。(中略)例えば、以下の学習過程を基本にし、何度も繰り返される中で、児童一人一人の深い学びを作り出し、気付きの質を高めていく。

- 1思いや願いをもつ
- ②活動や体験をする
- ③感じる・考える
- 4表現する・行為する(伝え合う・振り返る)

(資料5参照)

先輩先生からの ワンポイントアド<mark>バイス!</mark>

子供も教師もわくわくするような授業を!

幼児教育と学校教育の接続の最も重要なポイントは、「幼児期に遊びを通して育まれた自発性を、どう学習意欲へと転化させていくか」だと考えています。幼児教育で教師が意図する遊びに誘う環境構成は、その大きなヒントとなります。幼児期の遊びと教科との結節点となるのが生活科であり、その改善は接続の大きな鍵です。今回作成した単元構想を手引きに、子供も教師もワクワクする生活科の授業が各校で展開されればと願っています。

ウ ねらいを明確にした交流体験活動

これまでから、小1プロブレム解消を主な目的とした「もうすぐ1年生」体験入学推進事業により、各学校で様々な交流体験活動等が行われています。これからは、幼小で一貫した資質・能力を育成するという観点から、幼小それぞれのねらいを明確にし、交流体験活動等を見直していくことが大切です。

(a)交流活動の課題とこれからの方向性

幼児と児童との交流は、小学校への円滑な接続に有効であるだけではなく、お互いに関わることの良さや楽しさを実感し、幼児や児童の学びを広げたり深めたりすることにもとても有効な機会になります。

例えば、小学校への入学に対して不安を抱いていた幼児が、小学生や小学校の生活に実際に触れることによって、入学を待ち遠しく感じるようになったり、児童に対して憧れの気持ちをもったりするようになります。それだけではなく、小学校で見たことや体験したことを遊びに取り入れたり、言葉や表現への関心が高まったりします。

また、児童にとっても、年下の幼児と関わる中で、「相手の気持ちを考えよう」「分かりやすく伝えよう」といった気持ちが生まれ、思いやりの心を育むだけでなく、相手を意識した活動を工夫したり自己の成長に気付いたりするようになります。

これまで、小1プロブレムの解消を主眼に、小学校への「慣れ」に重きを置いた体験活動が多く見られましたが、学びを広げたり深めたりする有効な機会であることを踏まえ、幼児と児童双方の資質・能力の育成を念頭に、交流体験活動を豊かにすることが大切です。

(b) 交流活動を計画する上での留意点

- ①イベント的な単発の活動で終わらせない。次の活動や交流が楽しみになるような継続性のある計画を立てましょう。
- ②小学校サイドの計画に、幼稚園・保育所(園)・こども園が参加をするのではな く、教師や保育士が話し合い、活動内容を作っていきましょう。
- ③それぞれのねらいが実現できるよう交流する子供の姿を思い浮かべ、内容や環境 づくり、支援について考えていきましょう。
- ④交流活動シートを活用し、活動終了後に合同で振り返りを行い、次の活動に生かしていきましょう。
- ⑤公開授業や公開保育の機会を利用し、日頃から教育・保育内容を知り、教職員の 交流を深めておきましょう。

(資料6を参照)



資料

資料1 大カリキュラム例

資料2 中カリキュラム例

資料3 アプローチカリキュラム例

資料4 スタートカリキュラム例

資料 5 生活科単元構成例(1年生4月~7月)

資料6 保幼小交流体験活動例



資料 1

大カリキュラム例

			接	続カリキュラム(大)		資料1
期	間	9•10•11•12月	1・2・3月 修	了	入学 4.5月	夏47 6.7月
テー	ーマ	友達と一緒に遊ぶって楽しいな	力を合わせてやってみよう	一、毎日世の彼わりまでは	学校だいすき・友達できたよ	学校は楽しい!学びを深めよう!
		○遊びの中で自分の思いを実現させていく喜びを感じる	○友達と共通の目的をもって活動を進めていくことを楽しむ	幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿	○新しい環境に慣れ学校や学級の中で安心して過ごす	○自分の力を発揮し、友達と一緒に過ごす喜びを感じる
ねら	561	○自分の力を思いきり出して遊びや生活に取り組もうとする	○遊びや生活の中で役割を分担し、やり遂げる喜びを味わう		○学級の一員としての意識をもち、友達と過ごすことを楽しむ	○友達といろいろな活動を楽しんだり学級の仕事を行ったりする
		○友達と考えを出し合い話し合いながら遊びを進める楽しさを味わう	○一年生になる喜びを感じながら園生活を意欲的に過ごす		○授業の進め方に慣れ喜んで話を聞いたり話したりする	○友達と考えや気もちを出し合い、生活や学習に取り組もうとする
		食ことのマナーが分かり楽しんで食ことをしようとする	マナーを守って時間内に食事をしようとする	健康な	給食のマナーが分かり、楽しい雰囲気の中で食べようとする	マナーを 守って給食を時間内に食べることができる。
		園・所の生活の流れに合わせて行動する	園・所の生活に関心をもち、行動する	心と体	周りに合わせて行動する	チャイムに合わせて行動できる
	自	様々な身体の機能を動かして遊ぶ	十分に身体を動かして遊ぶ	自立心	健康や安全に気をつけて生活を送ろうとする	健康や安全に気をつけて、見通しをもった規則正しい生活ができる
	立	自分の身体に関心をもつ。	健康や安全に関心をもつ			
		自分でできることは自分でしようとする	基本的な生活習慣を身に付け進んで取り組もうとする		学習等の準備や片付けの仕方が分かる	学習等の準備や片付けを自分ですることができる
		自分で考えて行動しようとする	あきらめず最後までやり遂げようとする	思考力の芽生え	しなければならないことに気付き、行動しようとする	しなければならないことに気付き、自分から進んで行動する
		友達の考えを知り取り入れようとする	友達との対話を通して新しい考えを生み出す		クラスの友達の考えに触れる中で様々な考えがあることに気づこうとする	クラスの友達の考えに触れる中で様々な考えがあることに気づく
4 □	意欲	身近なこと象に関心をもつ	自然の美しさ不思議さを感じ興味関心を深める	自然との 関わり・ 生命尊重	動植物の世話を進んでしようとする	生き物に親しみをもち、命を大切にする
視		生活や遊びの中で文字や図形・数量への興味関心をもつ	遊びを通して生活に必要な文字や数字に親しむ	数量や図形、標 識や文字などへ の関心・感覚	感じたことや発見したことを絵や文字等で表す	言葉や文字、数などに親しみ、生活の場面で進んで活用する
		苦手なことにも挑戦しようとする	苦手なことにも挑戦する		苦手なことも最後までやり遂げようとする	苦手なことにも最後まで粘り強くやり遂げることができる
点		友達の思いや自分と違う考えを、受け入れようとする	共通の目的意識をもち、関心をもって話を聞いたり思いを伝えた する	り (言葉による 伝え合い)	いつ・どこで・だれと・などを意識し、相手に分かりやすく話そうとする	先生や友達とのやりとりの中で、言葉の意味を理解しようとしたり、 相手に分かるように伝えることができる
从	言	互いの思いを伝え合い、折り合いをつけて遊びを進めようとする	自分の思いを相手に伝わりやすいように話す		相手の話を聞き、言葉で自分の思いを伝えようとする	相手や場に応じて適切に伝えることができる
	葉・表	友達と同じ動きを楽しんだり、表現したりする中で楽しさを感じる	協力して友達と一緒に作ったり表現したりしようとする	豊かな感性と表現	友達同士で表現する過程を楽しみ、意欲をもって取り組もうとする	友達同士で表現する過程を楽しみ、進んで伝え合うことができる
	現	絵本やお話に興味をもち、見たり聞いたりすることを楽しむ		JENIE CALOR	自分の思いや考えをもち、描いたり作ったりして進んで表現しようとする	気づいたことや発見したことを言葉や絵を使って豊かに表現できる
		自分の思いを伸び伸びと表現する	曲想を感じたり、お話の世界を楽しんだりし、イメージを豊かにす			
		友達と互いのよさを認め合う	友達と共通の目的をもち、やり遂げる喜びを味わう	協同性	新しい友達のよいところに気付く	友達と協力して、生活や学習を進めることができる
		友達と力を合わせて、遊びを進めようとする	自分の役割が分かり、友達と協力して遊びを進める	社会生活と	必要な役割に気付き、友達と協力する	自分の役割を果たそうとする
	カュ	身近な人と関わり、思いを共有する	身近な人に、親しみや思いやりの気もちをもつ	の関わり	自ら先生や友達に関わろうとする	相手の思いに気付き、温かい心で接する
	わり	共同・共有の物を大切に扱い、マナーや約束を守ろうとする	自分の住む地域に興味・関心をもち、親しみを感じる		学校の生活環境を大切にしようとする	身近な地域や人に親しみをもつ
		よいことと悪いことに気付き、行動しようとする	必要なルールを作ったり、守ったりしようとする	道徳性・規範意識の芽	遊びや生活に必要なきまりを知る	自分の行動を振り返り、よいと思うことを守ろうとする

接続カリキュラム(大)

期	間	9•10•11•12月	1・2・3月 修了		入学 4.5月	6•7月
テー	ーマ	友達と一緒に遊ぶって楽しいな	力を合わせてやってみよう		学校だいすき・友達できたよ	学校は楽しい!学びを深めよう!
		○遊びの中で自分の思いを実現させていく喜びを感じる	○友達と共通の目的をもって活動を進めていくことを楽しむ	幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿	○新しい環境に慣れ学校や学級の中で安心して過ごす	○自分の力を発揮し、友達と一緒に過ごす喜びを感じる
ねり	No	○自分の力を思いきり出して遊びや生活に取り組もうとする	○遊びや生活の中で役割を分担し、やり遂げる喜びを味わう	月づくはしい安	○学級の一員としての意識をもち、友達と過ごすことを楽しむ	○友達といろいろな活動を楽しんだり学級の仕事を行ったりする
		○友達と考えを出し合い話し合いながら遊びを進める楽しさを味 わう	○一年生になる喜びを感じながら園生活を意欲的に過ごす		○授業の進め方に慣れ喜んで話を聞いたり話したりする	 ○友達と考えや気もちを出し合い、生活や学習に取り組もうとする
		食ことのマナーが分かり楽しんで食ことをしようとする	マナーを守って時間内に食事をしようとする	健康な	給食のマナール 楽しい雰囲気の中で食べようとする	マナーを守って給食を時間内に食べることができる。
		園・所の生活の流れに合わせて行動する	園・所の生活に関心をもち、行動する	心と体	周りに合わせて行動する	サイイ動できる
	自	様々な身体の機能を動かして遊ぶ	十分に身体を動かして遊ぶ	自立心	健康や安全に気をつけ接続期を大きく見通	して、各時期に
	立	自分の身体に関心をもつ。	健康や安全に関心をもつ		目指したい保育・教	
		自分でできることは自分	仕け進んで取り組もうとする	思考力の	学習等の準備や片 しよう!	さらい」を立てま
		_{自分で考えて} 10の姿を4つの視点です。 す。	構成していま	芽生え	しなければならないことに気付き、	rrjき、自分から進んで行動する
		^{友達の考} 縦に見るとその時期の			クラスの友達の考えに触れる中で様々な考えがあることに気づこう とする	クラスの友達の考えに触れる中で様々な考えがあることに気づく
	意	イメージできます。横に 姿の変化をイメージでき 身近なこと象に関心を		自然との 関わり・ 生命尊重	動植物の世話を進んでしようとする	生き物に親しみをもち、命を大切にする
視	欲	生活や遊びの中で文字や図形・数量への興味関心をもつ	遊びを通して生活に必要な文字や数字に親しむ	数量や図形、標 識や文字などへ の関心・感覚	感じたことや発見したことを絵や文字等で表す	言葉や文字、数などに親しみ、生活の場面で進んで活用する
		苦手なことにも挑戦しようとする	苦手なことにも挑戦する		苦手なことも最後までやり遂げようとする	苦手なことにも最後まで粘り強くやり遂げることができる
点		友達の思いや自分と違う考えを、受け入れようとする	共通の目的意識をもち、関心をもって話を聞いたり思いを伝えたり する	たり		先生や友達とのやりとりの中で、言葉の意味を理解しようとしたり、 相手に分かるように伝えることができる
	言葉	互いの思いを伝え合い、折り合いをつけて遊びを進めようとする	自分の思いを相手に伝わりやすいように話す		相手の話を聞き、言葉で自分の思いを伝えようとする	相手や場に応じて適切に伝えることができる
	· 表	友達と同じ動きを楽しんだり、表現したりする中で楽しさを感じる	協力して友達と一緒に作ったり表現したりしようとする	豊かな 感性と表現	友達同士で表現する過程を楽しみ、意欲をもって取り組もうとする	
	現	絵本やお話に興味をもち、見たり聞いたりすることを楽しむ			自分の思いや考えをもち、描いたり作ったりして進んで表現しようとする	気づいたことや発見したことを言葉や絵を使って豊かに表現できる
		自分の思いを伸び伸びと表現する	曲想を感じたり、お話の世界を楽しんだりし、イメージを豊かにする			
		友達と互いのよさを認め合う	友達と共通の目的をもち、やり遂げる喜びを味わう	協同性	新しい友達のよいところに気付く	友達と協力して、生活や学習を進めることができる
		友達と力を合わせて、遊びを進めようとする	自分の役割が分かり、友達と協力して遊びを進める	社会生活と	必要な役割に気付き、友達と協力する	自分の役割を果たそうとする
	カュカュ	身近な人と関わり、思いを共有する	身近な人に、親しみや思いやりの気もちをもつ	の関わり	自ら先生や友達に関わろうとする	相手の思いに気付き、温かい心で接する
	わり	共同・共有の物を大切に扱い、マナーや約束を守ろうとする	自分の住む地域に興味・関心をもち、親しみを感じる		学校の生活環境を大切にしようとする	身近な地域や人に親しみをもつ
		よいことと悪いことに気付き、行動しようとする	必要なルールを作ったり、守ったりしようとする	道徳性・規範意識の芽	遊びや生活に必要なきまりを知る	自分の行動を振り返り、よいと思うことを守ろうとする

接続カリキュラム(大)

期間	9・10・11・12月	1・2・3月 修了		入学 4.5月	6•7月
テーマ					
			幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿		
ねらい					
			http://		
			健康な心と体		
			1 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
自自					
			4 4 3		
			自立心		
立					
			思考力の		
			芽生え		
			自然との		
意			関わり・ 生命尊重		
			工加导里		
視微			数量や図形、標		
			識や文字などへ の関心・感覚		
			の関心・恋見		
<u> </u>			(言葉による 伝え合い)		
点					
言葉					
			豊かな		
表現			感性と表現		
			協同性		
			Malealtr		
			社会生活と		
カュ			の関わり		
かわ					
9					
			道徳性・規		
			道徳性・規 範意識の芽		

資料 2

中カリキュラム例

ねらい

- ○遊びの中で自分の思いを実現させていく喜びを感じる
- ○自分の力を思いきり出して遊びや生活に取り組もうとする
- ○友達と考えを出し合い話し合いながら遊びを進める楽しさを味わう

資料2

幼児の姿

☆友達と相談しながら自分達で遊びの場や内容を決め、自分の思いを出し、相手の思いも受入れながら遊びを進めていく面白さを感じるようになってくる。

☆大きな行事を経験したことが自信となり、いろいろなことに積極的に取り組むようになる。また、互いに認め合い仲間意識が深まる。 ☆落ち葉や木の実を集めたり、名前に関心をもったり、使って遊んだりすることを通して自然物に対して積極的に働きかけ、数量の感覚を 育んだり、生活や遊びに取り入れていこうとしたりする姿がみられる。

☆自分の考えと友達の考えの違いに気付き、折り合いをつけながら一緒に行動するようになる。

	4つの視点	◇環境作り ※保育者の関わり	活動・行事
	食ことのマナーが分かり楽しんで食ことをし	◇生活の流れがわかるようなカレンダーやスケジュールなどの掲示をしておく。	落ち葉・どんぐり
	ようとする	◇健康診断や身体測定を受け、自分の体を大切にしなければならないことに気付けるように	拾い
自	園・所の生活の流れに合わせて行動する	する。	
	様々な身体の機能を動かして遊ぶ	◇全身を使う運動と適度な休息を取りいれながら、心身の疲れをいやし、健康にすごせるよ	自然物を使った
<u> </u>	自分の身体に関心をもつ	うにする。	製作
1/.	自分でできることは自分でしようとする	※食に関わる体験を積み重ねることで、みんなで食べる楽しさやマナーの大切さに気づける	
	自分で考えて行動しようとする	ようにする。	鬼ごっこ(色鬼
		※自分でできることの喜びや自信に共感し、子供が自ら選択して行動できるようにする。	等)
		※自分でしようとする意欲や姿勢を十分に見守り、認めていく。	
	友達の考えを知り取り入れようとする	◇身近な草花や生き物に親しみ、自然への好奇心を育む経験ができるようにする。	昔遊び
	身近なこと象に関心をもつ	◇季節の変化を感じたり、自然物を遊びに取り入れたり、子供の気付きをクラスで共有でき	
		る環境をつくる。	お店屋さんごっ
意	生活や遊びの中で文字や図形・数量への興味関	◇生活や遊びの中で図形・数量の感覚が育まれるような機会をつくる。	Į, į
	心をもつ	◇身近なものの名前、歌詞などをひらがなで書いて掲示しておくなど、自然と文字に関心が	
欲	苦手なことにも挑戦しようとする	もてるようにする。	楽器あそび
		※子供同士の意見のやりとりを促し、思いやイメージが共有できるよう仲立ちする。	
		※友だちと励ましあったり、お互いの良さを認め合ったりできるような環境づくりをし、苦	なわとび
		手なことにも安心して取りくめるようにする。	
		※心の育ちを温かく見守り、自信や自己肯定感が育まれるよう関わる。	マラソンごっこ
	友達の思いや自分と違う考えを、受け入れよう	◇ごっこ遊びを通して必要な言葉のやりとりをしたり、文字や数字に興味をもち遊びに取り	
	とする	入れたりする。	運動会
	互いの思いを伝え合い、遊びを進めようとする	◇自然と体が動くような表現しやすい曲想を選び、繰り返し楽しめるよう環境を用意する。	v
11111	友達と同じ動きを楽しんだり、表現したりする	※遊びの中で思いを出し合う姿を認め、思いが伝わりやすいように援助する。	バス遠足
	中で楽しさを感じる	※互いの思いを伝え合いながら、折り合いをつける経験ができるようにする。	ムンブッシャン
葉		※思ったことを言葉で伝えながら友達と一緒に考えたり工夫したりできるように援助する。	生活発表会
	絵本やお話に興味をもち、見たり聞いたりする	※幼児と一緒に考えた表現や動きを取り入れ、友達と一緒に表現を構成していく楽しさが味	クリスマス会
	ことを楽しむ	わえるようにする。	クリヘマス芸
表	自分の思いを伸び伸びと表現する	※いろいろなお話や絵本、素話などを聞いたり、そのものに触れたり経験したりして、より	大そうじ
現		イメージが膨らみ心動くよう活動や環境を工夫する。 ※思ったことや感じたことを自分なりに表現し、その楽しさが味わえるよう、題材や材料、	人ですし
		終われことや感じたことを自分なりに表現し、その楽しさが味われるより、超材や材料、 経験など工夫する。	
		経験など工大する。 ※言葉や表現をしっかりと受けとめ応えていくことで、安心して自分の思いを表すことがで	
		※音楽へ級先をしらかりと支げとめ心えていくことで、女心して自力の心いを扱うことができるようにする	
	友達と互いの良さを認め合う	◇自分や友達のよさに気付けるように、幼児のよい姿を認めたり、他児に知らせたりする場	
	友達と力を合わせて、遊びを進めようとする	や機会をもつ。	
	身近な人と関わり、思いを共有する	◇友達と考えや思いを出し合う必要がある遊びの環境や機会をもつ。	
かか	共同・共有の物を大切に扱い、マナーや約束を	◇自分たちで正しく使ったり、片付けたりができるよう、用具を分類・整理しておく。	
わ	守ろうとする	※身近な人や地域の人と関わる楽しさを共有したり、心地よさを感じたりできるように関わ	
り	よいことと悪いことに気付き、行動しようとす	り方を知らせる。	
	3	※様々な場面での言動についてクラスで話し合い、相手の気持ちやどのようにすればよいの	
		か幼児自らが気付けるよう、声を掛けたり、話し合う場をもったりする中で自分と身近な	
		人を大切にしようとする気持ちが育まれるようにする。	
		※遊具や用具等の正しい扱い方を知らせ、所持品や共有の物を安全に、また大切に使うこと	
		ができるようにする。	

家庭連携

行事に向け、がんばっている過程を認めてもらえるように、連絡帳等で日々の様子を伝える。

心身の疲れが出やすい時期のため、一人一人に応じた生活リズムの整え方や、情緒の安定の図り方について話し合う機会を作る。

保護者がもつ就学や子供の発達についての不安な気持ちをくみとり、前向きな気持ちをもっていただけるように関わる。

小学校連携

- 保育参観や教師・保育士の交流の機会をもつ。
- 小学校の運動会に招待をし、小学校の雰囲気を味わわせる。

1月2月3月 テーマ 力を合わせてやってみよう

ねらい

- 友達と共通の目的をもって活動を進めていくことを楽しむ
- 遊びや生活の中で役割を分担し、やり遂げる喜びを味わう
- 一年生になる喜びを感じながら園生活を意欲的に過ごす

幼児の姿

- ☆ いろいろな場面で友達と共通の目的をもつことにより、自分なりに最後まで頑張ろうとする気もちをもつようになる。
- ☆ 友達と遊びを進める中で、教え合ったり励まし合ったりしながら互いのよさを受け止めていくようになる。
- ☆ 個人差はあるが、文字への関心が高まり、自分で絵本を読んだり友達と手紙のやりとりをしたりするなど文字を使った遊びが増えてくる。
- ☆ 一年生になるという自覚と期待感が強くなり、何ことも頑張ってしようとする前向きな態度がみられる。一方不安になる幼児もいる。

	4つの視点	◇環境作り ※保育者の関わり	活動・行事
	マナーを守って時間内に食ことをしようとす	◇日にちや時間の流れがわかり、生活に見通しがもてるような掲示物を工夫する。	正月遊び
,	3	◇戸外で身体の機能を充分に動かして幅広い遊びを経験できるような場を工夫する。	・かるた
自	園・所の生活に関心をもち、行動する	※今やるべきことを判断し、活動しようとする気もちを見守る。	・すごろく
		 ※自然や生活の変化に応じて、健康で安全に過ごすためにはどうすればよいか自ら考えられ	・こままわし
立	十分に身体を動かして遊ぶ	るように関わる。	・凧揚げ
	健康や安全に関心をもつ	※食こと・排便・睡眠等の大切さを知らせ、意識をもてるようにする。	
	基本的な生活習慣を身に付け進んで取り組も	※片付けや清潔にすることの必要性がわかり、自ら取り組めるように援助する。	カードゲームを
	うとする	※成し遂げようとしたことに最後まで諦めず取り組み、自信につながるようにする。	する
	あきらめず最後までやり遂げようとする		・坊主めくり
	友達との対話を通して新しい考えを生み出す	◇木々の芽吹きや花の蕾から生命力や自然の力等を感じられるような環境を作る。	・トランプ
	自然の美しさ不思議さを感じ興味関心を深め	◇遊びや生活の中で数えたり比べたりする機会を取り入れ、数量に関心がもてるようにする。	
	る	◇生活の中で必要な文字の習得が出来るように環境を整え、関心がもてるようにする。	わらべうた遊び
意	遊びを通して生活に必要な文字や数字に親し	◇いろいろな用具遊具を適材適所に選び、それらの特性に応じた使用の機会を増やす。	
	to	※人の考えを取り入れることにより、刺激を受けて物ことを理解・発展できるような援助をす	楽器遊び
欲	苦手なことにも挑戦する	る。	
		※動植物の世話の引き継ぎをする際、大切な思いや丁寧な扱い方等を文字や絵にして伝える	手紙を書いて遊
		機会を作る。	\$
		※実行するところまで丁寧に関わり、認めたり励ましたりして、自信や責任感につながるよう	
		にする。	学校ごっこ
		※心の育ちを温かく見守り、自信をもち主体的に活動する意欲が高まるように関わる。	
	共通の目的意識をもち、関心をもって話を聞い	◇遊びや生活の中で言葉を選んだり考えたりする機会を作る。	ドッジボール
	たり思いを伝えたりする	◇安心して自分の思いを表すことができる環境の中、身近な人と言葉や表現により心を通	
言	自分の思いを相手に伝わりやすいように話す	わせる喜びを味わえるようにする。	鬼ごっこ
	協力して友達と一緒に作ったり表現したりし	◇題材に応じた用具を使い、感じたことやイメージしたことを、描いたり作ったりして表現で	・ケイドロ
葉	ようとする	きるようにする。	・氷鬼
•	曲想を感じたり、お話の世界を楽しんだりし、	◇音楽に合わせて楽器でリズムをとったり、身体全体で表現したりして遊ぶ場を作る。	
表	イメージを豊かにする	◇絵本や物語等に触れ、文字の羅列にならないよう言葉の意味や温かさ、内容の楽しさが味わ えるようにする。	マラソンごっこ
現		※言葉の強弱から、相手の思いを感じ取れるよう援助する。	発表会
		※心地よい言葉を使うことにより、友達と仲良くなる体験を重ね、意識して使えるようにす	
		る。	豆まき
		※いろいろな曲想を感じながら歌う経験ができるようにする。	
		※人に伝えたい、描きたい等、表現したくなるような感動体験が積み重ねられるようにする。	ひな祭り会
	友達と共通の目的をもち、やり遂げる喜びを味	◇地域の出来ことや、遊びや生活に必要な情報を取り入れ友達と伝え合う機会をもつ。	
	わう	◇場や人に応じた態度で参加したり、話したりする力をつけられるような機会をもつ。	お別れ会
カュ	自分の役割が分かり、友達と協力して遊びを進	◇小学校の入学に期待し、周りからの情報に関心をもてるように掲示物などを工夫する。	
カン	める	※よいこと、悪いことを自分なりに判断し行動する姿を褒めたり認めたりしながら、自信をも	お別れ遠足
わり	身近な人に、親しみや思いやりの気もちをもつ	った生活ができるようにする。	
	自分の住む地域に興味・関心をもち、親しみを	※共通の目的に向かって役割分担をしたり、工夫したり助け合ったりしながら活動する中で、	修了式
	感じる	よさを認め合いながら、集団の一員であることを意識した生活ができるように関わる。	
	必要なルールを作ったり、守ったりしようとする	※入学を目前にし、環境が変わっていくことを感じ取る中で、家族や周囲の期待に応えようと する姿を認める。	終業式
		※身近なルールや交通ルールの必要性がわかり、それらを守り安全に生活しようとする気も	
,		ちがもてるようにする。	

家庭連携

一人一人の生活に合わせ、柔軟な対応をとりながら、家庭でも就学に向けて見通しをもった適切な規則正しい生活リズムが作られるよう働きかける。 これまでの園生活を振り返り、子供の成長を実感し、共に喜び合えるようにする。また、育児に対する労いの気もちを伝え、保護者自身の成長についても振り 返り、認める機会をつくる。

残り少ない園生活を充実して過ごせるように、進学への期待感を受け止め、ゆったりとした気もちで子供を見守り支えてもらえるようにする。 進学に対して不安な気もちを抱く幼児もいるので、小学校の具体的な様子を知らせ、楽しいイメージがもてるよう協力してもらう。

小学校連携

小学校のグランドで遊んだり、校舎内を見学したりする機会を設け、施設を知る
教師間でも授業や保育を参観し合い、児童、幼児の姿を把握する。

・書き初め展を見学 ・マラソン大会応援 ・給食体験 ・合同作品展 ・卒業生を祝う(卒業式にお花を渡す) ・出前授業

小学校の給食体験を通して、小学校給食の内容や味を知り、安心して食べられるようにする。 就学や育児不安がある家庭について申し送りをする。

4月5月 テーマ 学校だいすき友達できたよ

ねらい

児童の

姿

- ○新しい環境に慣れ、学校や学級の中で安心して過ごす
- ○学級の一員としての意識をもち、友達と過ごすことを楽しむ
- ○授業の進め方に慣れ、喜んで話を聞いたり話したりする

小学生になった喜びと期待をもつ中で、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けようとする。 小学校の一員になった自覚が強くなる。

先生や友達と学校生活を送る中で、学校の施設やルールについて理解しようとする。

小学校での新しい生活に楽しみや期待をもち、様々な人や物に関わるうとする。

	4つの視点	◇環境づくり ※教師の関わり(指導)	教 科 行 事
自立	給食のマナーが分かり、楽しい雰囲気の中で食べようとする 学習の準備や片付けの仕方が分かる 周りに合わせて行動する 健康や安全に気をつけて生活を送ろう とする しなければならないことに気付き、行動 しようとする	◇安心安全に学校生活が送れるように絵や写真、図等の掲示物を使って視覚的に提示する。 ※学校での基本的な生活習慣が身につくように繰り返して丁寧に伝える。 ※イスの座り方、鉛筆のもち方など教師が手本を見せるなどして、繰り返して丁寧に指導する。 ※給食の準備や後片付けの仕方を丁寧に指導することで、子供たち同士で協力して準備や後	
意欲	クラスの友達の考えに触れる中で様々な考えがあることに気づこうとする動植物の世話を進んでしようとする感じたことや発見したことを絵や文字等で表す 苦手なことも最後までやり遂げようとする	※学んだことを自分の言葉や絵で表現できるように支援するとともに、互いに学び合える場	「がっこうとともだち」 けんきにがっこうにいけるかながっこうのいちにちはどうなっているのかなこうていもたんけんし
言葉・表現	いつどこでだれと等を意識し、相手に分かりやすく話そうとする相手の話を聞き、言葉で自分の思いを伝えようとする友達同士で表現する過程を楽しみ、意欲的に取り組もうとする自分の思いや考えをもち、描いたり作ったりして進んで表現しようとする	◇さまざまな学習活動を友達と一緒にがんばれるように、グループ学習やペア学習など学ぶ場や形態等を工夫する。 ◇子供一人一人の個性や発想を引き出すために、日頃から読み聞かせを行ったり、休み時間	たんけんしたことをみ んなではなそう がっこうのまわりをあ るいてみよう あんぜんにきをつけて かえれるかな
かかわり	新しい友達のよいところに気づく 必要な役割に気付き、友達と協力する 自ら先生や友達に関わろうとする 学校生活環境を大切にしようとする 遊びや生活に必要なきまりを知る	 ◇授業のまとめや振り返りの場、終わりの会等で互いのよさを認め合える場を設定する。 ◇グループ学習や当番活動、清掃活動等を通して友達を意識して活動できる場を設定する。 ◇授業時間だけではなく、休み時間も人間関係が広がるように全員遊び等を取り入れる。 ※自から先生や友達に関わろうとする意欲をもたせるために、日常的な声かけや関わりを大切にする。 ※学校のルールや決まりを丁寧に指導する。 ※安心して学校生活がスタートできるように学校体制の中で全教職員が関わるようにする。 	ど」 音楽 「はくをかんじてりず むをうとう」 体育 「固定遊具をつかった 運動遊び」 生活4 「ひとつぶのたねか ら」 たねをよう せわをしよう みんなにつたえよう

家庭との連携

家庭訪問や日々の連絡、学級通信等を通して家庭での生活態度を把握すると共に、学校生活の様子を知らせる。学校で教えていること、学習の内容を家庭にも伝え、家庭と一緒に身に付けさせていく。

接続期工夫

地域ボランティア、PTA と連携を図り、子供の登下校の安全を見守る。

授業や生活の中で、保育所や幼稚園での遊びの要素を取り入れ、緊張感を和らげながら楽しめるようにする。

保幼小連絡会、連絡シート等により保育所、幼稚園での様子や家庭環境について情報交換する。

6月7月 テーマ 学校は楽しい!学びを深めよう!

ねらい

- ○自分の力を発揮し、友達と一緒に過ごす喜びを感じる
- ○友達といろいろな活動を楽しんだり学級の仕ことを行ったりする
- ○友達と考えや気もちを出し合い、生活や学習に取り組もうとする

児童の姿

小学校生活にも一定慣れ、基本的な生活習慣や学習習慣が身に付き、見通しをもって生活が送れるようになる。一層学習や生活の意欲が高まる。

新しい友達ができたり、上級生との交流も増えたりして生活に広がりが出てくる。

教科書を使って教科学習に取り組み、文字や数字を書いたり、自分の言葉で表現できたりするようになる。

	4つの視点	- 取り組み、又子や数子を書いたり、自分の言葉で表現できたりするようになる。	教科行事
自立	マナーを守って給食を時間内に食べることができるチャイムに合わせて行動できる健康や安全に気をつけて、見通しをもった規則正しい生活ができる学習の準備や片付けを自分ですることができるしなければならないことに気付き、自分から進んで行動する	◇一日の学校生活の流れが分かり、生活に見通しがもてるように時間割表などの掲示物を工夫する。 ◇係活動や清掃当番等、子供たちが自らわかって動くことができるように、視覚的に提示したり、意欲をもたせるような声かけ等工夫する。 ※食に関する意識が高まり、給食や家庭での食ことが健やかな体をつくるために必要なことであることを学習や日常の生活の中で常に意識させる日常的に家庭や栄養教諭との連携をとる。 ※学校での基本的な生活習慣を丁寧に伝え、確実に身につくように定期的に確認する。	地域仲良し会 終業式 縦割り班活動 生活科
意欲	クラスの友達の考えに触れる中で様々な考えがあることに気づく 生き物に親しみをもち、命を大切にする言葉や文字、数などに親しみ、生活の場面で進んで活用する 苦手なことにも最後まで粘り強くやり遂げることができる	◇さまざまな学習活動を友達と一緒にがんばれるように、グループ学習やペア学習など学ぶ場や方法を工夫する。 ◇図や文字を用いて学んだ内容を教室に掲示したり、子供同士が学習のまとめを共有できる場を設定したりして、常に意識できるようにする。 ※授業や遊び、生活の中で、子供ができたことを認め、自信をもたせる。 ※子供個々のよさが認め合えるように、全体の場で評価する。 ※学校の周りの自然に親しんだり、友達と一緒に植物を育てたりする。	生活科 「さあみんなででかけよう」 なにをしてあそぼう かな みんなのあそびばで たのしかったことを つたえよう
言葉・表現	相手や場に応じて適切に伝えることができる 先生や友達とのやりとりの中で言葉の 意味を理解しようとしたり相手に分かるように伝えたりすることができる 友達同士で表現する過程を楽しみ、進んで伝え合うことができる 気づいたことや発見したことを言葉や 絵を使って豊かに表現できる	 ◇声のものさし、発表のルール等の図や文字を用いて教室に掲示し、常に意識できるようにする。 ◇日頃から子供たちが安心して支援を求められるような、声かけや雰囲気、環境を整える。 ◇どの子供も自分の思いや意見を朝の会でのスピーチ活動、授業の中でのペアやグループ学習等で常に表現できるように工夫する。 ◇学んだり、発見したりしたことを自分の言葉や絵で表現し、互いに学び合える環境を整える・ ◇子供たちが自ら表現したくなるような体験活動や表現する時間の設定を行う。 ※個々の学びの様子を常にチェックし、個別に配慮が必要な子供については日常的に声をかけたり、ヒントを与えたりする。 ※発表した子供のよかったところなど全体の前で評価する。 	「ぶんをつくろう」 算数科 「こうえん」 音楽科
かかわり	友達と協力して生活や学習を進めることができる 自分の役割を果たそうとする 相手の思いに気付き、温かい心で接する 身近な地域や人に親しみをもつ 遊びや生活に必要なきまりを守ろうと する	 ◇グループ学習や当番活動、清掃活動等を通して友達を意識して活動できる場を設定する。 ◇授業や終わりの会等で互いのよさを認め合える場を設定する。 ◇授業時間だけではなく、休み時間も人間関係が広がるように全員遊び等を取り入れる。 ◇学習や生活の中に地域の人や行事、情報を取り入れ、地域に親しむ機会を設定する。 ※縦割り集会や活動の中で、他学年の子供たちからの声かけや関わりを通して、自ら様々な人に関わろうとする意欲をもたせる。 ※学校や、クラスのきまりについて子供たちの間で確立できるよう支援する。 ※善悪の判断について、自分なりに判断し行動する姿を、全体の場で評価する。 	

家庭との連携

家庭訪問や日々の連絡、学級通信等を通して家庭での生活態度を把握すると共に、学校生活の様子を知らせる。 学習の準備や宿題、家庭学習など自らできるよう、家庭との連携を密にする。

接続期工夫

地域ボランティア、PTA と連携を図り、子供の登下校の安全を見守る。

保幼小連絡会、連絡シート等により保育所、幼稚園での様子や家庭環境について情報交換する。

学習や生活の中で、幼稚園や保育所で行ってきた遊びの要素も取り入れ、子供同士の中で広がりを作る。

1月2月3月 テーマ 力を合わせてやってみよう

ねらい

- 友達と共通の目的をもって活動を進めていくことを楽しむ
- 遊びや生活の中で役割を分担し、やり遂げる喜びを味わう
- 一年生になる喜びを感じながら園生活を意欲的に過ごす

幼児の姿

 $\stackrel{\wedge}{\sim}$

☆ いろいろな場面で友達と共通の目的をもつことにより、自分なりに最後まで頑張ろうとする気もちをもつようになる。

友達と遊びを進める中で、教え合ったり励まし合ったりしながら互いのよさを受け止める

*はあるが、文字への関心が高まり、自分で絵本を読んだり友達とでいる。

るという自覚と期待感が強くなり、何ことも頑張って

中カリキュラム

	マナーをプ	************************************	<i>点を</i>
自	る 指導がイメージしやすいよ	うに この を充分	
	原 味物の原本、粉本マナ加ト	新し、活動 4つの視点に分けて記しています して、健康	ままわし
立	時期の保育・教育で大切に		凧揚げ
	を「テーマ・ねらい」と	の必要性がわかり、自ら取り組めるように援助する。	カードゲームをする
	す。幼児の姿と合わせて指	ELEXIVATION LIBRORY OF TOP SO	・坊主めくり
		・	・トランプ
意	る 遊びを通して生活に必要なる。	で必要な文字の習得が出来るように環境を整え、関心がもてるようにする。◇いろいろな用具遊具を適材適所に選び、それらの特性に応じた使用の機会を増やす。	わらべうた遊び
次 欲	む 苦手なことにも挑戦する	※人の考えを取り入れることにより、刺激を受けて物ことを理解・発展できるような援助をする。	楽器遊び
(日)人		※動植物の世話の引き継ぎをする際、大切な思いや丁寧な扱い方等を文字や絵にして伝える機会を作る。	手紙を書いて遊ぶ
		※実行するところまで丁寧に関わり、認めたり励ましたして、自信や責任感につながるよう にする。	学校ごっこ
	共通の目的意識をもち、関心をもって話を聞い	※心の育ちを温かく見守り、自伝・ ◇遊びや生活の中で	ドッジボール
	たり思いを伝えたりする 自分の思いを相手に伝わりやすいように話す	◇安心して自り わせる喜	鬼ごっこ
葉	協力して友達と一緒に作ったり表現したりし	◇題材に応 た合わせて具体化しましょう。	・ケイドロ
*	ようとする 曲想を感じたり、お話の世界を楽しんだりし、	きるように、 ◇音楽に合わせて来。 「作る。	・氷鬼
表	イメージを豊かにする	◇絵本や物語等に触れ、文字の帰しさが味わ	マラソンごっこ
現		えるようにする。 ※言葉の強弱から、相手の思いを感じ取れるよう援助する。	発表会
		※心地よい言葉を使うことにより、友達と仲良くなる体験を重ね、意識して使えるようにす	
		る。 ※いろいろな曲想を感じながら歌う経験ができるようにする。	豆まき
		※人に伝えたい、描きたい等、表現したくなるような感動体験が積み重ねられるようにする。	ひな祭り会
	友達と共通の目的をもち、やり遂げる喜びを味 わう 自分の役割が分かり、友達と協力して遊びを進	◇地域の出来ことや、遊びや生活に必要な情報を取り入れ友達と伝え合う機会をもつ。 ◇場や人に応じた態度で参加したり、話したりする力をつけられるような機会をもつ。 ◇小学校の入学に期待し、周りからの情報に関心をもてるように掲示物などを工夫する。	お別れ会
かかわ	める 身近な人に、親しみや思いやりの気もちをもつ	※よいこと、悪いことを自分なりに判断し行動する姿を褒めたり認めたりしながら、自信をもった生活ができるようにする。	お別れ遠足
b	自分の住む地域に興味・関心をもち、親しみを 感じる	※共通の目的に向かって役割分担をしたり、工夫したり助け合ったりしながら活動する中で、 よさを認め合いながら、集団の一員であることを意識した生活ができるように関わる。	修了式
	· - ·	※入学を目前にし、環境が変わっていくことを感じ取る中で、家族や周囲の期待に応えようと	終業式
	ି ଏ	する姿を認める。 ※身近なルールや交通ルールの必要性がわかり、それらを守り安全に生活しようとする気も	
	?疗`亩·掩	ちがもてるようにする。	

家庭連携

一人一人の生活に合わせ、柔軟な対応をとりながら、家庭でも就学に向けて見通しをもった適切な規則正しい生活リズムが作られるよう働きかける。 これまでの園生活を振り返り、子供の成長を実感し、共に喜び合えるようにする。また、育児に対する労いの気もちを伝え、保護者自身の成長についても振り 返り、認める機会をつくる。

残り少ない園生活を充実して過ごせるように、進学への期待感を受け止め、ゆったりとした気もちで子供を見守り支えてもらえるようにする。 進学に対して不安な気もちを抱く幼児もいるので、小学校の具体的な様子を知らせ、楽しいイメージがもてるよう協力してもらう。

小学校連携

小学校のグランドで遊んだり、校舎内を見学したりする機会を設け、施設を知る 教師間でも授業や保育を参観し合い、児童、幼児の姿を把握する。 ・書き初め展を見学 ・マラソン大会応援 ・給食体験 ・合同作品展 ・卒業生を祝う(卒業式にお花を渡す) ・出前授業

小学校の給食体験を通して、小学校給食の内容や味を知り、安心して食べられるようにする。 就学や育児不安がある家庭について申し送りをする。

	4 つの視点	◇環境づくり ※教師の関わり(指導)	教	科	行	事
自立						
意欲						
言葉表現						
かかわり						

家庭との連携

接続期工夫

6月7月 テーマ 学校は楽しい!学びを深めよう!

ねらい

- ○自分の力を発揮し、友達と一緒に過ごす喜びを感じる
- ○友達といろいろな活動を楽しんだり学級の仕ことを行ったりする
- ○友達と考えや気もちを出し合い、生活や学習に取り組もうとする

児童の姿

小学校生活にも一定慣れ、基本的な生活習慣や学習習慣が身に付き、見通しをもって生活が送れるようになる。一層学習や生活の意欲が高まる。

新しい友達ができたり、上級生との交流も増えたりして生活に広がりが出てくる。

教科書を使って教科学習に取り組み、文字や数字を書いたり、自分の言葉で表現できたりするようになる。

	4つの視点	◇環境づくり ※教師の関わり(指導)	教 科 行 事
自立	マナーを守って給食を時間内に食べる ことができる チャイムに合わせて行動できる 健康や安全に気をつけて、見通しをもっ た規則正しい生活ができる 学習の準備や片付けを自分ですること ができる しなければならないことに気付き、自分 から進んで行動する	◇一日の学校生活の流れが分かり、生活に見通しがもてるように時間割表などの掲示物を工夫する。 ◇係活動や清掃当番等、子供たちが自らわかって動くことができるように、視覚的に提示したり、意欲をもたせるような声かけ等工夫する。 ※食に関する意識が高まり、給食や家庭での食ことが健やかな体をつくるために必要なことであることを学習や日常の生活の中で常に意識させる日常的に家庭や栄養教諭との連携をとる。 ※学校での基本的な生活習慣を丁寧に伝え、確実に身につくように定期的に確認する。	地域仲良し会 終業式 縦割り班活動
意欲	クラスの友達の考えに触れる中で様々な考えがあることに気づく 生き物に親しみをもち、命を大切にする 言葉や文字、数などに親しみ、生活の場 面で進んで活用する 苦手なことにも最後まで粘り強くやり 遂げることができる	◇さまざまな学習活動を友達と一緒にがんばれるように、グループ学習やペア学習など学ぶ場や方法を工夫する。 ◇図や文字を用いて学んだ内容を教室に掲示したり、子供同士が学習のまとめを共有できる場を設定したりして、常に意識できるようにする。 ※授業や遊び、生活の中で、子供ができたことを認め、自信をもたせる。 ※子供個々のよさが認め合えるように、全体の場で評価する。 ※学校の周りの自然に親しんだり、友達と一緒に植物を育てたりする。	生活科 「さあみんなででかけよう」 なにをしてあそぼう かな みんなのあそびばで たのしもう たのしかったことを つたえよう
言葉表現	相手や場に応じて適切に伝えることができる 先生や友達とのやりとりの中で言葉の意味を理解しようとしたり相手に分かるように伝えたりすることができる友達同士で表現する過程を楽しみ、進んで伝え合うことができる気づいたことや発見したことを言葉や絵を使って豊かに表現できる	 ◇声のものさし、発表のルール等の図や文字を用いて教室に掲示し、常に意識できるようにする。 ◇日頃から子供たちが安心して支援を求められるような、声かけや雰囲気、環境を整える。 ◇どの子供も自分の思いや意見を朝の会でのスピーチ活動、授業の中でのペアやグループ学習等で常に表現できるように工夫する。 ◇学んだり、発見したりしたことを自分の言葉や絵で表現し、互いに学び合える環境を整える・ ◇子供たちが自ら表現したくなるような体験活動や表現する時間の設定を行う。 ※個々の学びの様子を常にチェックし、個別に配慮が必要な子供については日常的に声をかけたり、ヒントを与えたりする。 ※発表した子供のよかったところなど全体の前で評価する。 	国語科 「ぶんをつくろう」 算数科 「こうえん」 音楽科 「うたでなかよしに なろう」 「うたでさんぽ」 図画工作 「せんせいあのね」
かかわり	友達と協力して生活や学習を進めることができる 自分の役割を果たそうとする 相手の思いに気付き、温かい心で接する 身近な地域や人に親しみをもつ 遊びや生活に必要なきまりを守ろうと する	 ◇グループ学習や当番活動、清掃活動等を通して友達を意識して活動できる場を設定する。 ◇授業や終わりの会等で互いのよさを認め合える場を設定する。 ◇授業時間だけではなく、休み時間も人間関係が広がるように全員遊び等を取り入れる。 ◇学習や生活の中に地域の人や行事、情報を取り入れ、地域に親しむ機会を設定する。 ※縦割り集会や活動の中で、他学年の子供たちからの声かけや関わりを通して、自ら様々な人に関わろうとする意欲をもたせる。 ※学校や、クラスのきまりについて子供たちの間で確立できるよう支援する。 ※善悪の判断について、自分なりに判断し行動する姿を、全体の場で評価する。 	

家庭との連携

家庭訪問や日々の連絡、学級通信等を通して家庭での生活態度を把握すると共に、学校生活の様子を知らせる。 学習の準備や宿題、家庭学習など自らできるよう、家庭との連携を密にする。

接続期工夫

地域ボランティア、PTA と連携を図り、子供の登下校の安全を見守る。

保幼小連絡会、連絡シート等により保育所、幼稚園での様子や家庭環境について情報交換する。

学習や生活の中で、幼稚園や保育所で行ってきた遊びの要素も取り入れ、子供同士の中で広がりを作る。

資料3

アプローチカリキュラム例

テーマ 『友達と思いや考えを出し合いながら一緒に遊びを楽しもう』

活動(遊び) お店屋さんごっこに必要なものを作り、お店屋さんごっこを楽しもう

○ 友達と工夫しながら作ったり売り方や遊び方を考えたりする

内容 自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしてやりとりを楽しむ

保育者の願い・互いの思いを伝え合い、考えを出し合って遊びを進めてほしい。

5領域のねらい

健康

環境

・自分の力を発揮し、満足感や達成感を味わう 自立

人間関係 ・同じ目的をもち、友達と一緒に遊びを進めていく

・遊びを通して、文字や数量、図形、言葉などに **言葉・表現** ・友達の考えを知り、取り入れようとする

4つの視点

意欲

関心をもつ

言葉 ・役になりきって言葉のやりとりを楽しむ ようとする

表現・遊びに必要なものを考え、工夫したり作ったりして かかわり ・役になりきって言葉のやりとりを楽しむ

遊ぶことを楽しむ

これまでの遊びとつながり

砂遊び、自然物や身近な 素材を使って作って遊ぶ

いろいろな材料や素材に触 れて遊び、試したり工夫したり しながら製作を楽しむ

ごっこ、表現遊び、

友達とイメージを共有しながら、役になりきって様々なごっこ遊びを楽しむ

- ・作ったものを遊びに取り入れ遊ぶ
- ・作ったもの、見立てたもので友達とやりとりを楽しむ
- ・見てもらう喜びを感じたり、友達を見て楽しんだりする
- ・友達とやりとりしているうちにもっとたくさんのものや必要なものを感じ作り足す など

活動(遊び)の幼児の姿

- ・様々な素材や用具を利用し、イメージしたもの を実現しようとする
- ・友達と思いや考えを出し、役割を決めて遊びを 進める
- ・遊びに必要な言葉のやりとりを楽しむ
- ・異年齢の友達を誘い、関わりを楽しむ

環境設定のポイント

- ○経験してきた遊びを活かす
- ○活動の見通しをもって遊べる掲示物の工夫

・遊びに期待と見通しをもって取り組もうとする

・遊びの中で文字や図形・数量への興味関心をもつ

・互いの思いを伝え合い、折り合いを付けて遊びを進め

- ○イメージが実現できるような素材の提示
- ○必要と感じた時に作れる材料の準備
- ○明日へ遊びがつながる片付けの場の設定

保育者の援助のポイント

- ○クラス全体で活動を進めている意識がもて る話し合いや振り返り
- ○自分達で考えたり工夫したりしている姿の認め
- ○アイデアやイメージを実現する楽しさを感じられる共感
- ○異年齢の友達との仲立ち



事例 「お店屋さんごっこをしよう」

ねらい	○友達と互いに思いを出し合い、一緒に遊びを進めていくことを楽しむ
内容	○同じお店屋さんをする友達と一緒に工夫しながら作ったり、売り方 や遊び方を考えたりする
74	○自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしてやりとりを楽しむ
幼児の活動	 ○お店屋さんごっこに必要なもので今日作るものについて話し合う。 ○話し合いの中で出てきたものを身近な素材や自然物を使って見立てて製作する。 ○自分たちのお店屋さんの進み具合を友達にも知らせ、共有する。 ○売ったり、買ったりするのに必要な言葉を使い友達とやりとりをす
	వ _ం
	◇幼児と決めたお店屋さんごっこをする日までを提示し、見通しをもって遊んだり、生活できるようにしたりすることで、遊びに対して期待と見通しをもって取り組めるようにする。
	※遊びへの期待や目標がもてるように話し合いをする。また、自分 たちでお店の準備ができるように促すとともに保育者も一緒に考 えながら場を準備していく。
	◇遊びに必要なものが作れるように様々な素材を準備しておく。また、幼児のイメージが実現できるように必要に応じて新たな素材を提示できるようにしておく。
	※幼児同士で必要なものを考えて作ったり、品物の置き方などを考えたりして工夫している姿を十分認めていき、アイデアやイメージを実現する楽しさを感じられるようにする。
環境・ ※援	◇遊びの中でチケットやお金が必要と感じた時に作れるよう準備しておく。また、ごっこ遊びを通して文字や数字に興味をもち遊びに取り入れようとする姿を大切にする。
助	◇できた商品を並べられる売り場を幼児と考えながら準備し、進み 具合やできた物の数などが分かるようにするとともに、売る時の並 [™] べ方も考えられるようにしていく。
	※作った商品や衣装を使って売り場でお客さん役やお店屋さん役になってやりとりをする楽しさに共感しながら、他に何が必要かを考え、活動を進めていけるようにする。
	※グループごとの進み具合や活動内容をみんなに知らせたり相談 したりする機会を作ることで、クラス全体で活動を進めている意識 がもてるようにする。
	※お店のように製作物を飾ったり、並べたりする場を作り、明日への 遊びの期待をもちながら、お店を閉店し、片付けができるように幼 児と一緒に場を整えていく。
準備	・机・看板・テーブルクロス・製作物・素材(画用紙、ペン、紙粘土、自然物、絵の具、花紙、毛糸、箱、ビ

ーズ、ボンド、筒、テープなど)

・エプロン、三角巾

接続期のポイント

・身近な事象に関心をもち、遊びに取り入れる。 (自然とのかかわり)

・生活や遊びの中で文字や図形・数量への興味 関心をもつ。 (数量・図形・文字への関心)

・ごっこ遊びを通して必要な言葉のやりとりをする。 (言葉による伝え合い)

・遊びや生活に見通しをもつ。

(自立心)

- ・友達の思いや自分と違う考えを受け入れようとする。 (道徳性の芽生え)
- ・自分の役割が分かり、友達と協力して遊びを進める。 (協同性)
- ・互いの思いを伝え合い遊びを進めようとする。 (言葉による伝え合い)
- ・遊びの中で図形・数量の感覚を育む。 (数量・図形・文字への関心)(思考力の芽生え)
- ・身近な人と関わり、思いを共有する。 (言葉による伝え合い)
- ・自分の役割がわかり、友達と協力して遊びを進める。 (協同性)
- ・自分でできることは自分でしようとする。 (自立心)(規範意識の芽生え)



『白分なりの目標をもって挑戦しよう』 テーマ

活動 (遊び) なわとびを楽しもう

○ なわとびに親しみ、自分なりの目標をもって楽しむ ねらい

> ○ 友達と協力したり工夫したりして、共通の目標に向かって取り組む楽しさを味 わう

○ 友達と一緒になわとびを楽しむ 内 容

保育者の願い・遊びを楽しみながら跳躍力や持久力を育んでほしい。

・目標に向かって諦めずに取り組み、やり遂げる喜びや充実感を味わってほしい。

5領域のねらい

表現

4つの視点

意 欲

言葉・表現

かかわり

健康 • 体を十分に動かして遊ぶ

・健康、安全に関わる習慣に関心をもつ

人間関係 互いのよさや頑張りを認め合い、協力して遊ぶ楽

しさを味わう

環境 ・数や文字に関心をもつ

言葉 考えたことを自分なりに表現する楽しさを味わう

・様々な跳び方を工夫し、紹介し合う

自立 ・目標に向かって進んで体を動かして遊ぶ

・元気に遊ぶための生活習慣に関心をもつ

苦手なことにも挑戦しようとする

・回数を数えたり、なわとびカード等に記入したりする 中で、数や文字への興味関心をもつ

友達と考えを伝え合いながら遊びを進めようとする •一緒に跳んだり励まし合ったりする中で、共に遊びを

楽しむ喜びや心地よさを感じる

これまでの遊びとのつながり

縄に親しむ

縄を使った遊び (電車ごっこなど)

縄やゴムを跳び越えたり くぐったりして遊ぶ

縄を跳ぶことに慣れる

- 短なわとびに挑戦する
- ・保育者が縄を回し、簡単な大 なわとびを楽しむ(大波小波 など)

なわとびに挑戦する

- ・歌やかけ声に合わせて大縄を跳ぶ
- できたことをなわとびカード等に記入 したり、保育者や友達に伝えたりし て、自分なりの目標をもつ
- ・短縄、大縄の連続跳びに慣れ、 何回跳べるか挑戦する

活動 (遊び) の幼児の姿

- ・自分たちで遊びに必要なものを用意したり、安全に遊べる場所を考えたりする
- ・何回跳べるか、自分の目標をもって挑戦する
- ・できたことを、なわとびカード等に記入する
- ・保育者や友達と一緒に大なわとびを楽しむ
- ・跳んだ回数を知らせたり、お互いを認め合ったりする

環境設定のポイント

- ○幼児自身で用意や片付けができるよう な工夫
- ○スモールステップを取り入れ、自信や 達成感をもてるような、なわとびカー ド等の用意
- ○複数のグループが遊べるような場所の 確保

保育者の援助のポイント

- ○根気強く取り組めるような認めと励まし
- ○友達と関わり合う姿の見守り
- ○精一杯頑張ったり、友達と力を合わせた りする充実感や達成感への共感



事例 「大なわとびをしよう」



		, !
ねらい	○目標に向かって取り組む楽しさを味わう	
内容	○大なわとびをする○頑張ったことを認め合ったり、なわとびカード等に記入したりする	
幼児の活動	 ○園庭に出て大なわとびに必要なものを用意する。 ○それぞれの縄がぶつからないように、場所を考える。 ○大なわとびをする。 ○できたことを喜び、保育者や友達に知らせる。 ○友達の姿にも関心をもつ。 ○お互いに見せ合い、認め合ったり励まし合ったりする。 ○使ったものを片付ける。 ○保育室に戻り、なわとびカード等に記入する。 	
◇環境 · ※援助	 ◇自分たちで遊びに必要なものを準備したり片付けたりできるような収納の仕方を工夫する。 ※縄がぶつからないように間隔を空けたり、障害物となるものを避けたりと、安全面に留意し、必要に応じて知らせていく。 ※幼児同士で相談する姿を見守り、仲立ちしたり言葉を掛けたりする。 ※できたことや工夫したこと、頑張っている姿等を認め、意欲や自信につながるようにする。 ※幼児同士で教え合ったり助け合ったりできるよう、友達の姿も伝えていく。 ◇大なわとびを見せ合う機会を設け、よかったところ、頑張っていたところ等を伝え合い、お互いを認め合えるようにする。 ※なわとびカード等に記入しながら、自分自身のよかったところ、頑張ったところも振り返ることができるようにする。 ◇思ったことを話し合ったり、なわとびカード等に記入したりする中で、友達の表現の仕方や文字・数字への関心がもてるようにする。 	
準備物	 ・大縄(長さ、軽さが異なるものなど) ・なわとびポール ・ラインカー、線引き棒など ・なわとびカード等の記入に必要なもの (鉛筆、色鉛筆、シールなど) 	

接続期のポイント

- ・元気に遊ぶための生活習慣を意識する。
- ・安全に遊べるよう工夫しながら、伸び伸びと活動する。 (健康な心と体)
- ・「みんなで跳びたい」という気持ちから、協力したり工夫したりして遊ぼうとする。 (共同性)
- ・お互いを認め合い、言葉で表現する。 (言葉による伝え合い)
- ・遊びに必要なものを考えて準備したり、安全に遊べるように場所を考えたりする。
- ・長さや軽さが異なる大縄を試す中で、縄が回る速さや跳びやすさ等との関係に気づく。

(思考力の芽生え)

- ・お互いの姿を見たり、相談したりする中で、自 分の姿を振り返ったり、友達の気持ちに気付い たりする。 (道徳性の芽生え)
- ・なわとびカード等の記入を通して、自分自身を 認め、励ましたり、次の目標を見出したりする。 (自立心)
- ・自分なりの表現を楽しんだり、友達の表現の仕方に関心をもったりする。(豊かな感性と表現)
- ・自らの必要感や表現したい気持ちにより、文字 や数字を理解したり、使おうとしたりする。 (数量や文字への関心・感覚)

テーマ 『チームで遊ぶ楽しさを味わおう』

活動(遊び) ドッジボールをしよう

ね ら い () 友達とルールを考えたり守ったりしながら、ドッジボールを進める楽しさを味 わう

内 容 ○ 友達と相談しながら、ドッジボールをする

保育者の願い ・友達と思いを出し合ったり、ルールを考えたりしながら、自分達で遊びを進める 楽しさを感じて欲しい。

5領域のねらい

環境

言葉

4つの視点

健康 ・ルールを考えたり、守って行動したりする

自 立 ・ボールを投げたり、避けたりしながら身体を動かして

人間関係 ・友達と考えを出し合いながら、協力して遊ぶ楽しさ

遊ぶ

・チーム分けを考えたり、ボールを当てた人数を数えた

・遊びに必要な物が分かり、友達同士で場所を準備し

言葉•表現

意 欲

りする
・自分の思いを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりし

遊びを進めようとする

ながら遊びを進める

・遊びの中で、数量や形に関心をもつ

遊ぶ中で必要なルールを考えたり、守ったりする

・考えを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする かかわり

これまでの遊びとのつながり

を味わう

ボール遊び

・ボールを転がしたり、蹴ったり、投げたりするなどの遊びの中で、ボールに触れて遊ぶ楽しさを感じ、ボールに親しむ

転がしドッジボール・中当て

・簡単なルールを守って、ボールを相手に当てたり、避けたりすることを 楽しむ

ドッジボール(初期)

・保育者からドッジボールの仕方を聞き、相手にボールを投げたり、ボールを避けたりを繰り返し楽しむ

ドッジボール(中期)

- ・保育者と一緒に場所を準備したり、数を数えたりする
- ・遊びの中で思いや考えを出し合い、ルールを一緒に確認しながら遊び を楽しむ ■

活動 (遊び) の幼児の姿

- ・友達とコートやボールなど遊びに必要な場や用具を工夫して準備する
- ・自分達で相談し、チームを考えて分かれる
- ・相手にボールを当てたり、ボールを避けたり掴んだりする ことを喜ぶ
- ・ボールに当たったり、取れなかったりすることを悔しがったりする
- ・友達の姿を見て、自分なりに工夫して投げたり、避けたりして遊ぶ
- ・遊びの中で、思いがぶつかったり分からない事があったり した時は、友達と考えや思いを出し合い、自分達でルールを 考え、解決しようとする
- ・数を数えて、勝敗を決める

環境設定のポイント

- ○ボールを使った遊びの繰り返し の経験
- ○ルールに多様性のある遊び
- ○幼児同士が思いや考えを出し合 い、認め合える雰囲気
- ○周囲の遊びとの安全面を考慮
- ○思いきり遊びが楽しめる場所や 時間の確保

保育者の援助のポイント

- ○興味関心に合わせた言葉を掛け る
- ○友達と目的に向かって力を合わせながら、勝ったり負けたりする経験の積み重ね
- ○満足感を感じたり次への意欲や 仲間意識がもてたりする進行
- ○幼児自身が考えたり気付いたりできる機会を大切にする



事例 「友達と相談しながらドッジボールを楽しもう」

ねらい	○友達とルールを考えたり守ったりしながら、ドッジボールを進める 楽しさを味わう	
内容	○ドッジボールをする「友達と相談しながら、ドッジボールを楽しもう」	
幼児の活動	○自分たちで遊びに必要な場や用具を準備する。○自分たちでチームを考え、チームに分かれる。○ドッジボールをする。○遊びの中で分からないことがあった時は、考えや思いを出し合いながら、自分たちでルールを考えて進めようとする。	
◇環境 · ※援助	 ◇ドッジボールに必要なものを幼児が選び、幼児同士で準備できるようにしておく。 ◇幼児が十分に体を動かして遊べるように、障害物の無い広い場所を確保し、安全面に留意する。 ※幼児同士で自分の思いを伝え合いながら遊びを進めようとする姿を見守るとともに、思いがぶつかる時には、幼児の思いを受け止め、一緒に考えたり仲立ちしたりする。 ※幼児が自分なりに工夫しているところやうまく投げている姿を認めたり、他の幼児に知らせたりして、"自分もしてみよう""遠くまで投げたい"と意欲がもてるようにする。 ◇遊びの様子に応じて時間の調節が行えるようにする。 ◇遊びの様子に応じて時間の調節が行えるようにする。 ◇遊びの中で喜んだり悔しがったりと、思いを共有しながら幼児が友達と力を合わせて遊ぶ楽しさを味わえるよう、保育者も遊びに参加するとともに、楽しかった思いに共感し、次への意欲につなげる。 	
準備物	・ラインカー・線書き棒 など ・様々な素材や形のボール ・タイマー又は時計 など	

接続期のポイント

・遊びに合った形や大きさ、人数であるか等に気付く。 (数量や図形への関心)

・活動に必要なものを考えたり、相談したりしなが ら、自分たちで遊びの場所を準備する。 (協同性・言葉による伝え合い)

・手足や腕を十分に動かし、自ら活動に参加しようとする。 (健康な心と体)

✓・幼児同士で思いを出し合いながら、ルールを考え↑ たり、解決しようとする。

(道徳性・規範意識の芽生え)

- ・繰り返し遊ぶ中で、どうすれば思うように投げた り掴めたりするのか、勝つためには・・・など、考 えたり気付いたりする。 (思考力の芽生え)
- ・並べたり、表示を使ったり、数だけで比較したりしながら、数に興味をもつ。

(数量や図形への関心)

- ・友達と力を合わせたり、思いを共有したりしながら 遊びを楽しむ。 (協同性)
 - ・遊びの中で達成感や満足感を感じ、より意欲をもって取り組む。 (自立心)



『お正月遊びを楽しもう』 テーマ

凧揚げをしよう 活動 (遊び)

ねらい ○ 進んで体を動かして遊ぶ

○ お正月遊びに関心をもち、その楽しさを味わう

内 ○ 自分の凧を作り、凧揚げを楽しむ

保育者の願い・寒さに負けず体を動かして遊んでほしい。

・試したり工夫したりしながら、繰り返し遊ぶ中で楽しさを味わってほしい。

5領域のねらい

環境

表現

4つの視点

健康 • 寒さに負けず体を動かして遊ぶ

・寒さに負けず、戸外で十分に体を動かして遊ぶ

・繰り返し挑戦する

意欲

自立

・凧を揚げるという目標をもち繰り返し挑戦する 試したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう

人間関係 •同じ目標をもって友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう 風の強さや向きなどを感じる

言葉・表現 ・自分の思いを伝えたり、関心をもって友達の話を聞い

・思ったことや気付いたことを伝える

・遊びに使うものを工夫して作る

たりする

言葉

かかわり

・凧を揚げるという目標に向かって友達と一緒に遊ぶ

楽しさを味わう

これまでの遊びとのつながり

凧揚げ

・画用紙などで作った凧 •スーパーの袋やじニール袋

作った凧

園庭を走り回って遊ぶ

親子で凧を作る(参観)

- ・カラーポリ袋を六角形に切る
- 竹ひごをつける
- ・凧糸を結びつける など

凧あげ(六角凧)

- ・凧を揚げようと、小学校のグランドを 思い切り走り回る
- ・糸が絡まったり、ぶつかったりして 保育者に助けを求める

など

活動 (遊び) の幼児の姿



- ・自分なりの目標をもち、繰り返し試したり工夫したりして遊ぶ
- ・凧が揚がった喜びや友達の凧の様子から刺激を受け、さらに高く揚げたいと意欲をもって遊ぶ
- ・自分で修理をしたり、凧が絡まったら自分でほどいたりしながら遊ぶ
- ・気付いたことや困ったことなど、自分の言葉で伝えようとする

環境設定のポイント

- ○思いきり走れる広い場所
- ○修理ができる場所
- ○いろいろな風の日に繰り返し遊ぶ

保育者の援助のポイント

- ○凧を揚げる楽しさに気付くように促す
- ○試し工夫につながる言葉を掛ける
- ○根気強く取り組める励まし
- ○自分でしようとする姿の見守り
- ○達成感が味わえるような共感



事例 「凧揚げをしよう」



		-
ねらい	○寒さに負けず、戸外で体を動かして遊ぶ○試したり工夫したりして、凧揚げを楽しむ	
内容	○小学校のグランドで凧揚げをする	
幼児の活動	 ○小学校のグランドに行き、凧揚げをする。 ○高く揚がった凧を見合ったり、比べ合ったりする。 ○糸の長さや風の向きなどを考え、工夫する。 ○糸やビニールを必要に応じて自分で修理したり、保育者に困ったことを伝えたりする。 ○凧が絡まった時には、自分たちで解決しようとする。 ○凧が揚がった喜びや、工夫して分かったことなどを表現する。 ○保育室に戻る。 ○凧を片付ける。 ○遊びについて話し合う。 	
◇環境 · ※援助	 ◇小学校のグランドを使い、思いきり走り回り、伸び伸びと凧揚げを楽しめるようにする。 ◇小学校のグランドを使うことで、小学校の環境に親しむ機会となるようにする。 ※走る向きや間隔など安全面に留意し、必要に応じて知らせていく。 ◇修理が必要な時にはその場ですぐに自分で直せるよう用具を準備しておく。 ※一人一人の楽しむ様子を見ながら、凧を揚げる楽しさに気付いたり、考え工夫する楽しさが味わえたりできるような言葉を掛ける。 ※糸の長さや風の向きにも気付き、関心が高まるよう保育者も一緒に遊びながら伝えていく。 ※喜びや困ったことなど思いを伝えようとする姿を大切にし、丁寧に受け止めていく。 ※自分で作った凧を大切に最後まで丁寧に片付けができるよう見守る。 ◇今日の凧揚げで気付いたことや思ったことを話し合う場をもち、関心をもって伝えたり聞いたりできるよう援助する。 	***
準備物	・自分で作った凧・テープ類・凧糸	

接続期のポイント

・寒さに負けず、戸外で伸び伸び活動することで 体も心も躍動し意欲を高める。

(健康な心と体)

- ・凧を揚げるという目標に向かって、友達と一緒に 遊ぶ楽しさを味わう。 (協同性)
- ・工夫する楽しさ、達成感を味わうことでいろいろなことにチャレンジする意欲や根気強くやりきる力を養う。 (自立心)
- ・友達の動きを意識して遊んだり、折り合いを付けたりしながら、安全に遊べるように考えたりする。
- ・自分の凧も友達の凧も大切にする。

(道徳性の芽生え)

- ・修理をする中で、形や長さ、強度、凧の仕組みなどに気付き、関心や感覚をもつ。
- ・風の向きや強さによって、凧が揚がる様子の違い に気付く。 (思考力の芽生え)
- ・自分の体や凧を通して風の強さや向きを感じる など、直接体験の中での気付きを大切にする。 (自然とのかかわり)
 - ・糸が絡まったり破れたりした時には、自分で修理をする、友達と一緒に解決しようとするなど、自分の力で何とかしようとする姿を大切にし、最後までやり遂げる達成感につなげていく。

(自立心)

- ・自分の知っていることや感じたこと、分かったこと を友達に伝えたり、友達の考えを聞いたり、受け 入れようとする力をつける。
- 困った時には自分で伝えようとする。

(言葉による伝え合い)

テーマ 『みんなで話し合って遊びを進めよう』

活動(遊び) いろいろな鬼ごっこを楽しもう



ねらい いるいろな鬼ごっこに親しみ、体を動かして遊ぶ

○ 自分たちでルールを考え、工夫して遊びを進める楽しさを味わう

内 容 ○ 自分たちで工夫しながら鬼ごっこを楽しむ

保育者の願い・走る、登る、跳ぶなど様々に体を動かして遊んでほしい。

・友達と教え合ったり助け合ったりしながら、自分たちで遊びを進めていく 楽しさを味わってほしい。

5領域のねらい

言葉 表現

4つの視点

意 欲

かかわり

健康 ・寒さに負けず、進んで体を動かして遊ぶ

自 立 ・適度な休息を取りながら十分に体を動かして遊ぶ

人間関係 ・互いの存在を認め合い、思いやりの気持ちを育む

・数量や時間を感覚的に捉え、興味関心をもつ

環境・数量や時間に関心をもつ

諦めずに挑戦しようとする

・考えたことを伝えたり、相手の話を聞いたりする

言葉・表現 ・ 友達に分かるように伝えたり、相手の話に関心をも

って聞いたりする

して作り直したりする

イメージを豊かにして遊びを楽しむ

・ルールの大切さ、必要性が分かり、守ったり、工夫

これまでの遊びとのつながり

鬼ごっこに親しむ

・簡単なルールの鬼ごっこ を知り、保育者と一緒にす る

鬼ごっこを楽しむ

- ・知っている鬼ごっこを、幼児だけで楽しむ。
- ・困った時は、保育者に助けを 求める

自分たちでルールを考えて 鬼ごっこをする

- 自分たちでルールを変えて楽しむ
- 友達と思いがぶつかり合う
- ・友達の姿を見て、まねて遊んだり、 新たなルールを考え出したりする など

活動 (遊び) の幼児の姿

- ・ルールを考えながら遊んだり、友達の姿を見たりする中で、新しいアイデアを思い付く
- ・幼児が考えたことを紹介し、みんなでやってみる
- ・ルールを考え直しながら繰り返し遊ぶ
- ・勝った回数や人数を数えたり、時間を計ったりする
- ・友達と一緒に遊びたい気持ちから、自分の気持ちを調整し、折り合いを付けようとする

環境設定のポイント

- ○幼児と共に安全に遊べる場所の確認
- ○時間の見通しや時間の感覚がもてるような用具や道具の準備
- ○数量の差が感覚的に捉えられるような 工夫

保育者の援助のポイント

- ○幼児の体力や集中力に留意した時間の 調整
- ○自分の気持ちを調整し、折り合いを付け ていく姿の見守りや仲立ち
- ○試行錯誤した過程の十分な認め
- ○自分たちで遊びを進める喜びへの共感

40

事例 「自分たちで工夫しながら鬼ごっこをしよう」



ねらい	○自分たちでルールを考え、工夫して遊びを進める楽しさを味わう	
内容	○「ケイドロ」のイメージを共有し、ルールを工夫しながら遊ぶ	
幼児の活動	○「ケイドロ」を繰り返しする中で出てきた新しいアイデア(宝物を隠しておき、逃げるチームが宝物を見つけて持っている間はつかまらないなど)を紹介する。 ○遊びに必要なものを、身近なものを利用して用意する。 ○人数を数えて、追うチームと逃げるチームに分かれる。 ○つかまった人数や、手に入れた宝物を数えたり、比べたりする。 ○友達と思いがぶつかり合う。 ○考えたことを伝え合い、ルールを作っていく。 (例:どちらかのチームが勝ちやすくなったので、困ったことや感じたことを話し合いルールを考えるなど) ○ルールを足したり考え直したりしながら繰り返し遊ぶ。 ○遊びを振り返り、話し合う。	
◇環境 · ※援助	 ◇幼児と共に園庭の小石を拾ったり、安全に遊べる場所の確認をしたりする。 ◇新しいアイデアを紹介する機会を設け、分かりやすく伝えたり、関心をもって聞いたりできるよう援助する。 ※みんなでルールを確認したり、実際にやってみたりする中で、友達同士で教え合ったり助け合ったりできるよう仲立ちする。 ◇宝物を何にするか、身近なものの中から考え、自分たちで準備をする。 ※宝物の隠し場所については、安全面に留意して、必要に応じて言葉を掛ける。 ◇つかまった人数や宝物の数など数量の差が感覚的に捉えられるよう、工夫する。(ボードにマグネットを貼る等) ◇時計やタイマーの他、適当な時間の曲(CD)なども準備しておき、見通しや時間の感覚がもてるようにする。 ◇遊ぶ中で、うまくいかなかったところや変えた方がいいところなど、気付いたことを出し合う時間を設ける。 ※ルールを足したり考え直したりする場合、理由や必要性も理解したうえで再び遊べるようにする。 ※遊びを振り返る中で、試行錯誤した過程を認め、自分たちで遊びを進めることができた喜びに共感する。 	
淮	・カラー帽子・ボールや玉入れの玉(宝物の代わり)	

・ラインカー、線書き棒など・タイマーや時計 ラジカセ、CD

・マグネットボード ・マグネット

接続期のポイント

- ・言葉や動作等により友達に分かるように伝え たり、相手の話に関心をもって聞いたりする。 (言葉による伝え合い)
- ・自分と違う考えを受け入れたり、新たな考え を生み出したりする。 (思考力の芽生え)
 - ・戸外で十分に体を動かし、充実感を味わう。 (健康な心と体)
- ・イメージを共有し、役になりきって遊びを楽しむ。 (豊かな感性と表現)
- ・友達が遊ぶ様子を見たり、保育者と一緒に動いたりすることにより、自分なりに考え、主体的に遊びに参加しようとする。 (自立心)
- ・宝物の代わりになるものや隠す数を考えて用意したり、隠す場所を考えたりする。

(思考力の芽生え)

・具体物を使って数を表すことにより、数量の差 に関心をもつ。

(数量への関心・感覚)

- ・友達と一緒に遊びたい気持ちから、自分の気 持ちを調整し、折り合いを付けようとする。 (道徳性の芽生え)
- ・新しいルールを理解するとともに、その必要性に も気付き、守って遊ぼうとする。

(規範意識の芽生え)

・試行錯誤する経験を重ねながら遊びを進めていくことにより、自分達で考えて遊ぶ充実感や自信をもつ。 (自立心・共同性)

資料 4

スタートカリキュラム例

第1週 週予定表「はじめましてしょうがっこう」

資料4

ねらい 〇学校にはどんな場所やどんなものがあるかに気づき、学校生活の様子がわかる 〇安心して学校生活をスタートすることができる

	〇安心して学校生活をスタ	ニュックニとかららる						
校時	1日目(月)	2日目(火)	3日目(水)	4日目(木)	5日目(金)			
朝の活動 8:00~8:25								
8:00~8:25 朝学習 8:30~8:40		読み聞かせ	朝 <i>c</i>	準備を担任と一緒に全員	· で行う			
8:30~8:40 朝の会 8:40~8:45			朝の話・	健康観察				
	音楽「うたでなかよしになろう」 ・音楽に合わせて遊んだり身体を	音楽 歌・手遊び 学活 ふれあいゲーム 国語 読み聞かせ など					今週	累計
1	動かしたりする	道徳「楽しい学校」 ・小学校で楽しみなことは何かな	生活 「いちねんせいになったよ」 図工 「すきなものなあに」 ・	国語 「こえのおおきさ、どうするの」	国語	4•1/3	3 4•1/3	
		学活 ・朝の用意・お道具箱の使い方	道徳「あいさつ」 ・元気よくあいさつをしよう	(自己紹介で提示する絵)	・声のものさし -	算数	0) 0
		生活「がっこうとともだち」 〇教室付近	生活「がっこうとともだち」 〇校庭や運動場など	生活「がっこうとともだち」 〇廊下やトイレなど	生活「がっこうとともだち」 〇校長室、保健室、給食室など	生活	3•2/3	3 • 2/3
3	- 入学式	・教室での過ごし方 ・ロッカーの使い方 ・お便りのしまい方	・春を見つけよう	・廊下の歩き方 ・トイレの使い方 -	・担任以外の先生に出会う	音楽	2/3	3 2/3
			体育 ・遊具で遊ぼう		国語「なんていおうかな」 ・職員室への入り方	図画工作	2/3	3 2/3
		国語 ・1年生を迎える会の思い出を絵と ことばでかく	国語「あさ」 ・校庭で見つけた春の交流 ・教科書を開く、折る ・座り方、立ち方	聴力検査 ・名簿順に並ぶ練習をしておく	書写 「しせいともちかた」 ・姿勢 ・鉛筆の持ち方 ・せんのおけいこ	体育	1/3	1/3
						道徳	2/3	3 2/3
						学級活動	4-2/3	4-2/3
		地域仲良し会	学活 ・下校グループの確認	国語「あさ」「どうぞよろしく」 ・姿勢	学活「たのしい給食」 ・給食の時間の約束	児童会	1	1 1
4			・下校コース確認	・鉛筆の持ち方 ・はじめての自分の名前を書く	・給食当番の仕事 ・給食の準備	学校行事	3	3
			帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会		合計	19	19
給食			/		給食			
昼休み					帰りの準備・帰りの会			
掃除		-				1		
5								
J								
			/					

第2週 週予定表「はじめまして ともだち」

交時	6日目(月)	7日目(火)	8日目(水)	9日目(木)	10日目(金)			
朝の活動 :00~8:25 朝学習		登村	。 したら、朝の準備を自分で	する				
30~8:40		読み聞た	nせ・手遊び歌・ふれあいゲ	ームなど				
朝の会 :40~8:45			朝の話・健康観察					
	音楽 「うたでなかよしになろう」 ・音楽に合わせて遊んだり身体を 動かしたりする	学活「学年開き」 ・学年の友達を知り、一緒に遊ぶ	図工 「自分の顔」 ・クレパスの使い方	国語「うたにあわせてあいうえお」 ・元気よく音読をする ・ひらがなの学習「く」	国語「うたにあわせてあいうえお」 ・元気よく音読をする ・ひらがなの学習「へ」	週時数	今週	累計
1	到れていてがある			「このられなの子目」()	- 0.9%なの子目1. ()	国語	4-2/3	
						算数	3	
	生活「がっこうとともだち」	生活「がっこうとともだち」 〇音楽室	生活「がっこうとともだち」 ○図書室	体育「体ほぐしの運動」 ・ならびっこ	視力検査·身体測定	生活	2	5•2/
2	体育 ・体操服の着替え方	音楽 ・さまざまな楽器を知る	国語「どんなおはなしかな」 ・図書室で本を読む	・体ほぐし		音楽	3-2/3	4-1/
	・体育の時間のきまり ・ならびっこ	•校歌	・図書室での過ごし方			図画工作	1	1•2/
	国語「どうぞよろしく」 ・自己紹介をし合う ・自分の名前と自分の好きなものを	国語 ・1年生を迎える会の思い出を絵と ことばでかく	音楽「うたでなかよしになろう」 ・1年生を迎える会に向けての学年 練習	算数「かずとすうじ」 ・絵と数図ブロックを対応させ、5までの数を表す	音楽「うたでなかよしになろう」 ・1年生を迎える会に向けての学年練習	体育	1•2/3	
3	伝える	2214 6714	林 自	(の数を扱う		道徳	1	1•2/
						学級活動	3	7-2/
	算数「算数への導入」 ・挿絵をもとにストーリーを考える ・2つのものの集まりを1対1に対応	・ロの形に気をつけて元気よく音読		道徳「友達と仲よし」 ・新しい友達と仲よくなろう	学活「教室をピカピカにしよう」 ・つくえといすを運ぶ	児童会	0	
4	づけ、数の多少を調べる	298			・ぞうきんのしぼり方 ・ぞうきんがけ	学校行事	1	
	給食の準備	給食の準備	給食の準備	給食の準備	給食の準備	合計	21	4
給食	給食	給食	給食	給食	給食			
昼休み	帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会	昼休み			
掃除					掃除 生活「がっこうとともだち」 ・2年生との交流 ・学校探検の招待状を受けとる			
					帰りの準備			
帚りの会					帰りの会]		

第3週 週予定表「たのしもう がくしゅう」

交時	11日目(月)	12日目(火)	13日目(水)	14日目(木)	15日目(金)			
朝の活動 :00~8:25 朝学習			としたら、朝の準備を自分で	する				
30~8:40		読み聞か	vせ·手遊び歌·ふれあいゲ	ームなど				
朝の会 40~8:45			朝の話・健康観察					
	音楽「うたでなかよしになろう」 ・音楽に合わせて遊んだり身体を 動かしたりする	国語「うたにあわせてあいうえお」 ・元気よく音読をする ・ひらがなの学習「も」	国語「うたにあわせてあいうえお」 ・元気よく音読をする ・ひらがなの学習「つ」		国語「どんなおはなしかな」 ・読み聞かせ ・本の借り方	週時数	今週	累計
1	到かしたりする	「・ひらかなの子目・も」	「・ひらかなの子目・フ」	う	・図書室で本に親しむ	国語	4-1/3	13•1/
						算数	5	
	チャイムを守る	体育「体力テストに向けて」 ・ならびった	体育「体力テストに向けて」 ・ならびっこ		内科検診	生活	3-1/3	
2	・発表の仕方	・ボール投げ	・ 反復横跳び・ 立ち幅跳び			音楽	2	6-1/
						図画工作	1•1/3	
	音楽「うたでなかよしになろう」 ・1年生を迎える会に向けての学年 練習		音楽「うたでなかよしになろう」 ・1年生を迎える会に向けての学年		国語 ・学校探検で体験したことを交流す	体育	2	
3	樑 首	ことばでかく	練習	でかく	ি	道徳	1	2-2/
						学級活動	0	7-2/
	算数 「かずとすうじ」 ・5までの数について、絵と数図ブロックと数字を対応付けて順序良く	算数「かずとすうじ」 ・5までの数字を書く	算数「かずとすうじ」 ・5までの数がいくつといくつに分け ェ		算数 「かずとすうじ」 ・10までの数について、絵と数図ブロックと数字を対応付けて順序良く	児童会	0	
4	数える		'ক	ら、10までの数を表す	ロックと 数子を 対心	学校行事	1	
	給食の準備	給食の準備	給食の準備	給食の準備	給食の準備	合計	20	6
給食	給食	給食	給食	給食	給食			
配休み	帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会	帰りの準備・帰りの会]		
<u>掃除</u> 5	家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問			

第4週 週予定表「これからのぼく・わたし」

ねらい	○学校にはどんな場所やどんなものがあるかに気づき、学校生活の様子がわかる
	〇安心して学校生活をスタートすることができる

校時	1608(8)					
	16日目(月)	17日目(火)	18日目(水)	/	/	
朝の活動 8:00~8:25	登校	したら、朝の準備を自分で	する			
8:00~8:25 朝学習 8:30~8:40	読み聞か	ヽせ・手遊び歌・ふれあいゲ	ームなど			
朝の会 8:40~8:45		朝の話・健康観察		/		
	音楽「うたでなかよしになろう」	国語「ことばをつくろう」 ・あいうえおで始まる三語の言葉集め ・ひらがなの学習「い」	国語「ことばをつくろう」 ・あいうえおで始まる言葉の音読 ・ひらがなの学習「り」			週国
2	音楽「うたでなかよしになろう」 ・1年生を迎える会に向けての学年 練習	児童会 「1年生を迎える会」	眼科検診			生活音
3		国語 ・1年生を迎える会の思い出を絵と ことばでかく	体育 「体力テストに向けて」 ・かけっこ ・50m走の測定			体道
4	算数「かずとすうじ」 ・10までの数字を書く	ばらばらの果物の数を数える絵グラフを書き、数の多少を比べる				児学
	給食の準備	給食の準備	給食の準備			合
給食	給食	給食	給食			
昼休み 掃除	昼休み 掃除	昼休み 掃除	昼休み 掃除			
万	• • • • •	道徳「お世話になっている人」	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /			
	帰りの準備	帰りの準備	帰りの準備			
帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会			
下校						

週時数	今週	累計
国語	3	16•1/
算数	3	1
生活	1	1
音楽	1	7•1/
図画工作	3	
体育	1	
道徳	1	3-2/
学級活動	0	7•2/
児童会	1	
学校行事	1	
승計	15	7

第 週 週予定表「

<u> </u>	<u> </u>	J				-	
ねらい	<u> </u>		0.000(10)	488/4		_	
		2日目(火)	3日目(水)	4日目(木)	5日目(金)	1	
朝の活動 8:00~8:25							
朝学習 8:30~8:40				L	L		
朝の会 8:40~8:45							
						週時数	今週
1						国語	
						算数	
						生活	
2						音楽	
						図画工作	
						体育 道徳	
3							
						学級活動	
						児童会	
4						学校行事	
						合計	
給食							
昼休み						,	
掃除							
5							
帰りの会							

累計

資料 5

生活科単元構成例

(小学校1年生4月~7月)

いちねんせいになったよ

4月(全4時間)

資料5

単元のねらい 学校生活や登下校に対して安心感をもち、新しい環境で元気に生活していこうという自信と意欲をもつことができる。 学・・・(1)(3) ・
入学式 地域なかよし会 1年生を迎える会・道徳 「たのpしいがっこう」「あいさつ」 ・
国籍「あさ」「なんていようかな」「どうぞよろしく」 ・
音楽「はくをかんじてりずむをうとう」 ・
図エ「すなやつちとなかよし」「すなやつちでねんど」 ・
体育「固定遊具をつかった運動遊び」

【児童の学びのストーリー】

「ついに1年生になれた」という喜びと新しく始まる学校生活に対して大きな期待に満ちあふれている子子供達。一方では「どんなことするのかな」、「みんなと一緒にできるかな」という未知への不安と自分自身への不安ももっている。期待感と安心感を高め、不安感を軽減することが小学校生活のスタートとして大変重要である。これから始まる学校生活に向けて、「安全に家までたどりつく」ために、下校の道のりにおける注意事項を考えることができるように進めていく。さらに「楽しく学校で過ごす」ために友だちと関わる方法について気付いていけるようにする。

知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
(豊かな言葉と表現する)	(社会に目を向けよりよく考える)	(目標を持って進んで学ぶ)
ることや、場に応じて約束を守ったり、めあてに 沿って学習をしたりすることが大切だと気付くとと もに、学校は安心して過ごすことができる場所で	登下校において、友達や地域の方と挨拶したり、危険を回避しながら安全に歩いたりすることができるとともに、学校内の生活において、友達と楽しく関わったり、約束を守りながら時間ごとのめあてに沿って活動したりすることができる。	

ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点	評価	基準(目指す子どもの姿)
1 げんきにがっこうにいけるかな 学校までの道のりには自分の学校生活が明るくなるように楽しみにしている人がたくさんいることに気付き、学校へ意欲と安心感をもって登校することができる。	1	1 家から学校までの道のりにおいては、多くの人との出会いや、様々なものがあることを知る。 おうちとがっこうはどこかな? きいろのふくをきたひとは、なになのかなあ? 2 「できるかな」を見て登校前に自分でできるかどうか考える。 おはようといったよ。 じぶんでおきたよ。 3 翌日からの登校を職員全員が心待ちにしていることを伝え、学校へ行きたいという気持ちを高める。 はやくあしたにならないかなあ。	・安心して学校生活がスタートできるように学校体制の中で全教職員が関わるようにする。(かかわり)・2日目を心待ちにして下校できるように、教室環境を整えること、初日の授業を2日目への期待につながるように声かけする。(意欲)	【学びに向 学校まで が明るく、	一、「いっしょう。 一、「いっしょう」 「かう力・人間性等】 の道のりには、自分の学校生活 楽しみになるような人がたくさん こ気付いている。
2 がっこうのいちにちはどうなっているのかな 学校の1日の生活の流れについて知り、意欲と安心感をもって学校生活を送ることができる。	1	1 学校の1日の流れについて知る。 2 これまでの生活と比較しながら時間ごとにするべきことがらと、そこで「頑張ること」、「気をつけること」があることに気づかせる。	・一日の学校生活の流れがわかり、絵や写真、図等の掲示物を使って、視覚的に分かりやすく説明する。(自立)・小学生になったという意欲や期待感をを引き出し、高めるためにも「自分からする」「自分でする」姿を,認めて賞賛する。(意欲)		支能の基礎】 に関心をもち、生活リズムをつく いる。
3 あんぜんにきをつけてかえれるかな 危険な場所や人などに対して適切に行動して、安全に帰宅することができる。	1	1 学校から家までの下校の道のりについて、安全に気をつけて帰るための行動を考える。 2 いろいろな「危ない場面」があることに気づき、「危ないこと」と「どうすればよいか」をつなげて考える。「安全な場所」も見つける。	・安全ボランティアやPTA等の協力のもと、登下校の安全が見守られていることを気付かせ、自分でも安全に行動が取れるよう指導する。〈自立〉・教室ではお互いに安全な行動をとるための話し合いをさせ、実際の下校に付きそう中で、安全に気を付けながら下校をしているかを確認する。〈かかわり〉	学校から 険に対し	判断力・表現力等の基礎】 家までの道のりのなかにある危 てどうすればよいかを考え、適切 しながら帰宅することができる。
4 なかよくあそべるかな 友達の顔・名前を覚え、約束を 守りながら友達と仲よく遊ぶこと ができる。	1		・友達と関わることに関心をもち、ルールを守りながら仲よくのびのびと遊ぶことができるように支援する。(かかわり)・友達づくりに対して安心して取り組める子供と、不安を抱く子供とが混在していることを意識しながら支援する。〈自立)	友達に関	支能の基礎】 わることに関心をもち、仲よく楽 つびと遊んでいる。

がっこうと ともだち(全13時間)

4~5月



|単元のねらい 学習内容 ·学校を探検したり、学校で働く人々と関わったりしながら、学校内に部屋やものとその役割など学校で働いている人々と【学···(1)【·道徳 4(1)(4) その仕事に気付き、自分も学校の一員であることを感じて楽しく安全に学校生活を送ることができるようになる。また、そ 身…(6)

|の経験をもとに学校の周りにも目を向けることができるようになる。

・国語「あさ」「なんていおうかな」「どうぞよろしく」 音楽「はくをかんじてりずむをうとう」

図工「すなやつちとなかよし」「すなやつちでねんど」

合科・関連する教科

・体育「固定遊具をつかった運動遊び」

【児童の学びのストーリー】

4 がっこうのまわりをあるいてみ

見つけたものや気付いたことを

教え合うことを通して、学校への

|愛着や学校生活への自信を深め

3

よう

ることができる。

学校生活に慣れ始め、自分の教室の外へと目が向き始めた子供達は、体験入学などの経 |験から、「知っているよ」「行ってみたいな」の思いが膨らんできている。「学校を探検しよう」 と呼びかけることで、行きたい教室や活動の約束も進んで考える。探検での発見は、友達に |教えたくて、絵やお話の表現につながっていく。「もう一度行きたい」「今度は〇〇へ探検し たい」と思いは広がり、校庭や近くの公園へと活動の場を広げていくことで、学校生活で必 要なルールを身につけ、自信を深めていく。

知識や技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎 学びに向かう力・人間性等 (社会に目を向けよりよく考える) (豊かな言葉と表現する) (目標を持って進んで学ぶ) ・学校探険を通して、学校での生活 ・学校の施設の様子を知り、学校生 ・学校の施設を通して、先生友達などに親しみや関心をもっ はいろいろな人や施設と関わってい 活をささえている人々の思いや願い て関わり、楽しく生活しようとする。 ることが分かる。 について考えることができる。

ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点
1 がっこうたんけんにいこう 学校の中の場所や人、部屋の意味、場所ごとのマナーに気付き、 安心して学校生活を送ることがで きる。	4	2 行ってみたい場所NO1から学校全体を回り、他学年の教室、特別教室やいろいろな特徴ある場所の存在と、そのおおよその位置を知る。	・学校での基本的な生活習慣が 身につくように繰り返して丁寧に 伝える。(自立) ・いつでも子供たちが安心して支 援を求められるような、声かけや 雰囲気、環境を整える。(意欲)
2 こうていもたんけんしてみよう 校内の動植物とふれあったり、校 庭の遊具や施設などを正しく使っ たりすることができる。	4	2 安全に気を付け約束を守りながら、気になる場所で遊んだり、人や動植物と関わったりして	・学校のルールや決まりをていねいに指導する。(かかわり) ・学校の周りの自然に親しんだり、友達と一緒に植物を育てたりするために環境を整える。(意欲)
3 たんけんしたことをみんなではなそう 見つけたものや気付いたことを教え合うことを通して、学校への愛着や学校生活への自信を深めることができる。	2	2 思い出を想起し、話しながらカードを学校マップにはっていく。 3 話し合いから気付いたことをまとめるとともに、学校探険をしてよかったことを発表し合う。 いろいろな先生がいてびっくりしたよ。早くお兄さんやお姉さんになって	・学んだことを自分の言葉や絵で表現できるように支援するとともに、互いに学び合える場の設定をする。(意欲)・自分の思いや意見を授業の中でのペアやグループ学習等で常に表現できるような環境設定を工夫する。(言葉・表現)

【知識や技能の基礎】

学校内の施設や人々に関心をもっていろいろな場所へ行 き, 興味深く見たり, 人と話したりしている。

評価基準(目指す子どもの姿)

【思考力・判断力・表現力等の基礎】 学校内の場所ごとのルールを守って行動したり、礼儀正しく 話したりしながら、部屋にある物やいる人、部屋の目的など を調べている。

【学びに向かう力・人間性等】

学校のなかの場所や人、部屋にあるものや部屋の目的、 場所ごとのマナーに気付いている。

【知識や技能の基礎】

校庭の動植物や遊具・施設に関心をもっていろいろな場所 へ行き、興味深く動植物と接したり、遊んだりしている。 【思考力・判断力・表現力等の基礎】

動植物に優しく接したり、ルールを守って遊具や施設を使 用したりしている。

【学びに向かう力・人間性等】

校庭にあるものやその場所、動植物との関わり方やものの 使い方に気付いている。

【知識や技能の基礎】

見つけたもの・こと・人のことを先生や友達に意欲的に話し たり、友達の話を聞こうとしたりしている。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

見つけたもの・こと・人のことをわかりやすく伝えるために言 葉や動作で発表している。

【学びに向かうカ・人間性等】

学校の中の場所や人、部屋にあるものや部屋の目的、校 庭にあるものや自然、場所ごとのマナーについて気いてい る。

【知識や技能の基礎】

通学路にある自然や人々, 安全を守るための施設などに 気付く。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

みんなで歩いて発見したことや、自分の地域のお気に入り の自然や人などについて、わかりやすく伝えるために言葉 や動作で発表している。

【学びに向かう力・人間性等】

通学路の自然や人、安全を守る施設などに関心をもってさ がしながら, みんなで歩いたり, 自分の地域を見直したりし ている。

学校マップを振り返り、学校の周りにも行ってみたいという意欲を高める。

|2 いくつかのルートに分け、その通学路を使う子どもが好きな場所を説明し ながら学校の近くを歩いてみる。

3 学校探険の時と同様、マップにカードを置きながら、お気に入りになった 場所、がんばったことを発表していく。

こんど○○の場所にいってみたいなあ。○○小学校のことがもっと好きになったみたい!!

どの子供も自信をもって表現活 動ができるように、発表した子供 のよかったところなど全体の前で 認める。(言葉・表現)

・授業のまとめや振り返りの場等 でお互いのよさを認め合える場を |設定する。(かかわり)

ひとつぶのたねから

5月~9月(全10時間)

単元のねらい 学習内容 身近な植物に興味・関心をもち、それらに生命があることに気付くとともに、植物を大切にすることができるようにする。 ・プール開き 学…(3) 身…(4)(5)(6 自…(9)

道徳「なにをしているのかな」「ぞうさんとおともだち」 「あとかたづけ」

合科・関連する教科

国語「ぶんをつくろう」

・算数「こうえん」 ・音楽「うたでなかよしになろう」「うたでさんぽ」 ・図画工作「せんせいあのね」

【児童の学びのストーリー】
子供たちは幼児期より家庭や幼稚園・保育所(園)で様々な植物の栽培を経験してきている。小学校へ入学してこれまでの栽培や遊びの経験を十分にいかして、継続的な栽培活動をする過程で様々な気付きが生まれ、植物の変化や生長の様子に関心をもつことができるようになる。またその栽培活動の中で「もっと元気に育ってほしい」「花をたくさん咲かせてほしい」などの願いからよりよい生活条件にも目を向け、植物への親しみをもち、世話をする楽しさや喜びを味わうこと

知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
(豊かな言葉と表現する)	(<mark>社会に目を向けよりよく考える</mark>)	(<mark>目標を持って進んで学ぶ</mark>)
	植物を育てながら気付いたり感じたりしたことを, 自分なり の方法で表している。	植物を意欲的に育て、その生長に興味・関心をもつ。

ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点	
1 たねをまこう 自分が育てたい花を決め、元気 に育つように願いながら、花の種 を植えることができる。	1	 1 2年生から引き継いだアサガオの種を提示し、どんな花が咲くのかを想像し、絵であらわしてみる。 「これはなんのたねだろう。」 2 幼稚園や保育所(園)で育てたことのある植物を思い出して出し合う。 「ようちえんでそだてたことがあるよ。」 「いえにもさいてるよ。」 3 自分が育てる花を知り、ことばや絵で表す。 4 栽培容器と培養土を用意し、種をまく。 	・栽培意欲を高められるように、これまでの栽培経験を思い出させたり、提示物等を準備しする。(意欲) ・栽培活動の過程がわかり、見通しがもてるように、ICT等を活用する。(意欲) ・初めて種と出会った時の思い、種を植える時の願いを言葉や文章で表すことができるよう導く。〈言葉・表現)	【学びに発芽や
2 せわをしよう (芽生え~) 自分が育てたい花の変化や生長 の様子に関心をもち、生長に応 じた観察や世話をすることができ る。	2	1 毎日の日課として水やりや観察を行い、絵やことばで表す。 「はやくめがでないかな。」 「めがでたよ。」「どんどんへんしんするよ」 2 アサガオの生長の違いや原因について考える。 「どうしてちがいがあるのかな。「どんなふうにせわをすればいいかな。」 3 よりよい生長に向けての世話に仕方について考え、栽培活動につなげる。	・主体的に日常の栽培活動が継続できるように環境を整え、観察するポイントを示す。(意欲・環境) ・これまでの栽培経験や友だちと比較により、より大きく育てるための世話の仕方を考えさせる。(言葉・表現) ・発芽した時の喜び、生長していく変化、植物に合った世話をした後の自分の成長の様子などを意欲的に文や絵で記録できるように場の設定を心がける。(言葉・表現)。 ・子供の世話や観察の記録を共有できるような環境を設定し、評価する。(自立)	【思考: 花の育 話の仕
3 せわをしよう(開花時期) 自分が育でたい花の変化や生長の様子に関心をもち、生長に応じた観察や世話をすることができる。	1	1 毎日の日課として水やりや観察を行い、絵やことばで表す。 「おおきくなあれ。」「はやくはながさかないかな」 2 咲いた花の数を記録し、さらに栽培意欲をもつ。 「はながさいたよ。3つもさいたよ」「きれいだね。」「まだつぼみがたくさん 3 咲いた花で何かできないかみんなで出し合う。 「ようちえんでもあそんだことがあるよ。」	・主体的に日常の栽培活動が継続できるように環境を整え、観察するポイントを示す。(意欲・環境) ・さらに栽培意欲をもてるように、声を掛けたり、励ましたり、観察記録等を評価する。(意欲) ・幼稚園や保育所(園)などこれまでに栽培した経験や、遊びを活用して学びを広げる。(自立)	【学び日花が生的に生
4 せわをしよう(種取り) 自分が育てたい花の変化や生長 の様子に関心をもち、生長に応 じた観察や世話をすることができ る。	1	1 花が咲き終わった後はどうなるのかを想像して考えを出し合う。 「はなのあとはどうなるんだろう」「なにかふくらんでいるよ」「たねはこのあとどうなるんだ 2 種取りをする。 「ちゃいろくなってきた。とってみよう。」「はるにまいたたねといしょだよ」 3 とった種をどうすればよいか考える。 「いくつとれたかかぞえてみよう。どうやってかぞえたらいいかな。「ひとつのはなから	・花が終わった後の観察のボイントを示しながら最後まで意欲的に世話や観察を継続させる。(意欲) ・種の数を数える際など、幼稚園や保育所(園)などこれまでに栽培した経験や、遊びを活用して学びを広げる。(自立) ・種ができたときの喜び、種のできかたについての気づきなど絵や文などの観察記録から評価する。(言葉・表現)	「知識」育ででいてい
5 みんなに つたえよう 〜こんなことがあったね〜(9月 実施) 花を育てた様子を振り返り、作品 に表したり、友だちと交流したりし ようとしている。	2	1 夏休みが終わり、育てた花がどうなっているか観察する。 2 春から育ててきた様子を振り返り出し合う。 「はるにたねをまいたね」「まいにちみずやりをしたね」「なつやすみはいえでせわをしたよ」 3 これまでの栽培活動を伝え合う方法を考え、発表会をひらく。 「あさがおしんぶんをつくろう」「らいねんのいちねんせいにてがみをかこう」「おうちのひとに 49	・種の採取も済んだ鉢からこれまでの様子との違いを見つけられるよう観察のポイントを提示する。(言語・表現)・多くのことが引き出せるよう、グループやペアで振り返えらせる。(言語・表現)・意欲的に活動できるように、これまでの観察カードを活用したり、ICT等を活用したりして振り替えさせる。(意欲)・意欲的に活動できるように場の設定やグループでの準備や役割分担について支援を行う。(環境)・グループそれぞれの発表についてその都度よかったところを具体的に評価することで、次への栽培意欲へとつなげる。(意欲)	(知のない) ままり はいまま はいまま はいまま はいい はいい ままい にいいけん はいけん はいけん はいけん はい

評価基準(目指す子どもの姿)

向かう力・人間性等】 生長を楽しみにしながら、種まきをしようとし

カ・判断力・表現力等の基礎】 つ場所、変化や生長について考え、世

:方を工夫して」

こ向かう力・人間性等】

長する様子や変化に関心をもち、継続 話をしようとしている。

技能の基礎】

いる花にあった世話の仕方があることに気付 5。



や技能の基礎】

たことや遊んだこと等を紹介しあう活動 で、自分や友だちの良さに気付いてい

カ・判断力・表現力等の基礎】

たことや遊んだことなどを自分なりの方 えている。

こ向かう力・人間性等】

たことや遊んだことをわかりやすく相手 ようとしている。

さあ、みんなででかけよう[6月 全8時間)



単元のねらい 安全に気を付けて、遊び場や野原に出かけて行き、みんなで遊びながら、人や自然とふれあうことができる。また、春の季節を感じることができる。

学習内容 学…(3)

合科・関連する教科

身…(4)(5)(6) 自…(9)

・プール開き ・道徳「なにをしているのかな」「ぞうさんとおともだち」 「あとかたづけ」

・国語「ぶんをつくろう」 ・算数「こうえん」

音楽「うたでなかよしになろう」「うたでさんぽ」

・図画工作「せんせいあのね」

【児童の学びのストーリー】

少しずつ学校生活に慣れ、新しい友だちとのつながりも深まってきた子供達が、 放課後や休日に友達と地域に飛び出していく。仲の良い友達同士で遊ぶだけで なく、クラス全員で「学校以外の身近な場所」へ繰り出して遊ぶワクワク感を味わわせ、同じ場所でも遊ぶメンバーが変わると違うもののように見えることを体感さ せたい。

知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
(豊かな言葉と表現する)	(社会に目を向けよりよく考える)	(目標を持って進んで学ぶ)
		遊び場は多くの人々が利用していて、いろいろな施設があり、それらが
		みんなのものであることや、自然のなかで遊ぶ楽しさに気付いている。
	ことを絵や文やお話や身体全体を使って表現することが	
	できる。	

		13000			
ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点	Ī	評価基準(目指
1 クラス全員で「学校以外の身近な場所」へ出かける計画を立てよう		1 放課後や休日に地域で遊んでいる場所の中から、クラス全員で安全に遊ぶことができそうな場所を考える。(公園・広場草原・野山・河原・休耕田・公民館・児童館など) 2 出てきた意見の中から、「安全に気を付けて遊べる所」「2時間で言って帰ってこられる所」など、みんなで考えて一番よい場所を決める。 3 遊び計画を立てる。	活動のきっかけ ・教科書の挿絵等を参考に「楽しい遊び場はないかなあ」		【思考力・判断力・表現力等 びに行くことができる「学校 いて適切な場所を考えてい
2 みんなのあそびばでたのしもう(公園遊び) 安全に気をつけて遊び場に出かけて行き、友達と遊びながら、人や自然と楽しくふれあうことができる。	2	1 遊び場で楽しく遊んだり、探検したりする。 2 遊び計画を元に楽しく遊ぶ。 「なにがみつかるかな」 「どんなあそびをしようかな。」	自然の中で楽しく遊ぶために ・安全面等も考慮して事前に現地に行き、下見を十分に行う。(意欲) ・生命の大切さなどについても丁寧に指導する。(自立) ・自然ならではの遊びやゲームを幼稚園・保育所(園)での経験を基にさらに広がっていくように支援する。(かかわり) ・公園にはどんな施設や看板があるかを話し合ったり、探検後に教科書の施設と比べたりすることで、公園での約束を考えたり色々な人、自然と触れあうことを楽しめるように導く。(言葉・表現)	7	【知識や技能の基礎】友ら、自然に親しんだり、うる。
3 たのしかったことをつたえよう 遊び場で見つけたこものや遊ん だことを自分なりの方法で表現 し、相手に伝えることができる。	1	1 楽しかったことの報告会の準備をする。 2 みんなに伝えたいことを自分なりの方法で発表する。 3 友だちの発表を聞いたり、自分の発表したことを振り返る。 4 もう一度遊び場へ行く計画を立てる。 「みんなにおしえてあげたいな。」	いろいろな表現方法で ・子供たちが主体的に自分の伝えたいことを自分のやりや すい方法で発表できるよう支援する。(ことば・表現) ・一人一人の子供たちがうまく発表できるように聞く態度に ついても指導する。(自立) ・朝の会や終わりの会、休み時間などの日常の生活の中 でも子供達の気付きを評価する。(言葉・表現)		【知識や技能の基礎】自 んだことを分かりやすぐる。
1 クラス全員で「学校以外の身近な場所」へ出かける計画を立てよう	1	1 放課後や休日に地域で遊んでいる場所の中から、クラス全員で安全に遊ぶことができそうな場所を考える。(公園・広場草原・野山・河原・休耕田・公民館・児童館など) 2 出てきた意見の中から、「安全に気を付けて遊べる所」「2時間で言って帰ってこられる所」など、みんなで考えて一番良い場所を決める。 3 遊び計画を立てる。	・・1回目の遊びの経験を活かしてよりみんなが楽しめるように導く。(言葉・表現)		【思考力・判断力・表現力等活かして、遊びの計画を立
2 みんなのあそびばでたのしも う(公園遊び・草花遊び) 安全に気を付けて遊び場に出か けて行き、友達と遊びながら、人 や自然に楽しくふれあうことがで きる。	2	1 遊び場で楽しく遊んだり、探検したりする。 2 遊び計画を元に楽しく遊ぶ。 「なにがみつかるかな」 「どんなあそびをしようかな。」 「くさばなでもあそべるよ。」	自然の中で楽しく遊ぶために ・安全面等も考慮して事前に現地に行き、下見を十分に行う。(意欲) ・生命の大切さなどについても丁寧に指導する。(自立) ・自然ならではの遊びやゲームを幼稚園・保育所(園)での経験を基にさらに広がっていくように支援する。(かかわり)		【思考力・判断力・表現 だまままで を活かし、エ夫して遊ぶ
3 たのしかったことをつたえよう 遊び場で見つけたこものや遊ん だことを自分なりの方法で表現 し、相手に伝えることができる。	1	1 楽しかったことの報告会の準備をする。 2 みんなに伝えたいことを自分なりの方法で発表する。 3 友達の発表を聞いたり、自分の発表したことを振り返る。 「みんなにおしえてあげたいな。」 50	いろいろな表現方法で ・子供達が主体的に自分の伝えたいことを自分のやりや すい方法で発表できるよう支援する。(ことば・表現) ・一人一人の子供達がうまく発表できるように聞く態度に ついても指導する。(自立) ・一人一人の子供達の発表の中で小さなよさや気付きも 見逃さず評価する。(言葉・表現)		【知識や技能の基礎】遊こで遊んだ経験を発表しことについて友達に質問【学びに向かう力・人間かだことなどを紹介し合達のよさに気付いている

指す子どもの姿)

カ等の基礎】クラス全員で遊 掉校以外の身近な場所」につ ている。

友だちと仲よく遊びなが 、活動したりしようとしてい

自分が見つけたものや遊 く相手に伝えようとしてい

カ等の基礎】1回目の遊びを 立てている。

見力等の基礎】自然環境 ぶことができる。

遊び場に行ったことやそ 長したり, 自分が知らない [問したりしている。 間性等】見つけたことや遊 合う活動の中で自分や友 いる。

だいすき なつ(全4時間)

6~7月



単元のねらい	学習内容	合科・関連する教科
	身…(4)(5)(6) 自…(9)	 ・終業式 地域仲良し会 ・道徳「もりのぷれぜんと」「なんていえばいいのかな」 ・国語「ぶんをつくろう」 ・算数「こうえん」 ・音楽「うたでなかよしになろう」「うたでさんぽ」 ・図画工作「せんせいあのね」

【児童の学ひのストーリー】 学校や遊び場などでの活動を通して、子供達は学校生活にも慣れ、友達や先生、学校の周りの自然と意欲的に関わろうとするようになってくる。子供達が学校やその周り、また近くの遊び場などで季節の変化を感じ取り、思う存分夏にひたって友達と仲よく遊んだり、楽しい遊びを工夫したり、友達の輪を広げられるようになっていく。ここでの活動や体験から生まれる子供達の感動や気付きを大切にしながら展開していく。また夏休みの計画をみんなと相談しながら立てることで、初めての夏休みを楽しく有意義に過ごすことができる。活動については、身近な自然や自分が関わっている生き物などの春から夏への変化の様子に気付くように働きかけ、子供のつぶやきや思いに共感するよう心がける。また、遊びの中にうまく入れない子供には、教師も一緒に遊ぶ等して、自然や友達との関わりを広げるよう配慮する。

知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
(豊かな言葉と表現する)	(<mark>社会に目を向けよりよく考える</mark>)	(<mark>目標を持って進んで学ぶ</mark>)
	夏らしい遊びを工夫したり,夏休みの計画を立てたりすることができる。	夏の季節を活かして楽しく遊ぶ。

ねらい	時数 主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点
なつを見つけにいこう 交庭の探検を通して、植物の様子の変化や春とは違った生き物 の存在に気付き、見つけたことを まとめることができる。	1 春から様子が変わったもの(桜の木など)の写真を提示する。 どこだろう?他にも、春と様子が変わった所があるのかな?見つけにいきたい 2 校舎周辺をまわり、春からの変化や夏を感じるものを見つける。 桜の花がなくなって、葉が出ている。ありがたくさんいるよ。 3 見つけたものを教室に戻ってカードに書く。 4 カードに書いたものを友達と交流する。 外に出ているだけで太陽が当たって暑いよ。すずしく遊べないかな? 5 探検を通して体感した暑さをもとに、みんなで夏を楽しく遊びたいという意欲を高める。	・春に観察した所を中心にまわることで、季節の変化に 気付きやすくする。(意欲) ・活動場所については、子供達の様子が見渡せる安全 な範囲の中で、子供が活動するようにする。(自立)
2 みずやつちであそぼう 夏に適した遊びや、土や砂、水 などを使った遊びを工夫して友 主と楽しく遊ぶことができる。	1 暑い夏を楽しく遊ぶにはどんな遊びがいいか考える。 水を使うと涼しいよ。シャボン玉をつくりたいな。どろだんごをつくろうかな。 2 外に出てみんなで考えた遊びを友達と一緒に楽しく遊ぶ。 どうしたら、上手にシャボン玉をつくれるかな。水を流して川をつくろう。 3 活動を振り返り、後片付けをする。 晴れた日に遊ぶのは楽しいな。雨の日はどうだろう? (4)雨上がりに校舎外に出て、晴れた日との様子の違いを感じさせる。 ※可能なら別日に実施	・土や砂、水遊びではそれらの特性に気付かせるともに、作品づくりでは一人遊びから次第に友達と協力して遊びが広がっていくように支援する。〈かかわり〉・子供のアイディアを引き出し、遊びの工夫ができるように教科書の挿絵や写真も適切に活用する。(意欲)・楽しい遊びは互いに友達にも伝えられるような場の設定を行い、個々の遊びが広がるよう支援する。(ことば・表現)・川や山などで遊ぶ際の安全面の約束や、遊んだ後の後片付けなど徹底する。(自立)
3 なつやすみを たのしもう 「学期を振り返り、夏休みのめあてを担任や家の人と相談しながら立て、楽しい夏休みを過ごすことができる。また、地域の行事や身近な自然と積極的に関わるとともに、健康で安全な毎日を過ごすことができる。	1 夏に楽しみなことを出し合う。	・初めての夏休みを安全に楽しく過ごせるように家庭や地域との連携を密にとる。(かかわり) ・夏休みのくらしについて徹底する。(自立) ・子供達が主体的に様々な豊かな体験ができるように、紹介する。(意欲) ・子供一人一人が自分の1学期を振り返る機会とし、交流させる。(ことば・表現)

評価基準(目指す子どもの姿)

【知識や技能の基礎】 校庭の自然や生活の場で春から夏の変化に 気付いている。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】 水遊びや土、砂遊びにおいて自分なりの遊び

方を工夫している。 【学びに向かう力・人間性等】

夏の季節のよさを活かして、みんなと楽しく仲良く遊んでいる。



【思考力・判断力・表現力等の基礎】 安全で健康に生活することを考えて、自分に あった計画を立て、それを表現することができ

	る教科
【児童の学びのストーリー】 知識や技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎 学びに向かう力・人間性がな言葉と表現する (特合に見る句は としょくきょう)	性等 性等
(豊かな言葉と表現する) (社会に目を向けよりよく考える) (目標を持って進んで学	<i>ኛ</i> እን
ねらい 時数 主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ) 支援と留意点 評価基準(目指す	子どもの姿)
4	
52	

がっこうと ともだち(全13時間)

・学校を探検したり、学校で働く人々とかかわったりしながら、学校内に部屋やものとその役割など学校で働いている 学・・・(1) し道徳 4(1)(4)

を向けることができるようになる。 合科する教科や単元名

合科する教科や単元名 てりずむ うとう」 たかよし、「すなやっちでねんど」 をここに記入しましょう。 つかった運動遊び」

【児童の学びの学校の学校生活に慣れ経験から、「知っ」と呼びがける。 達に教えたくて、検したい」と思い必要なルールを

4~5月

どんな子供達が、学習対象や学習材にに出会うことで、 どんな思いや願いをもつか。そしてどのような活動をす ることで、どんな気付きが生まれるのか。活動を進める (繰り返す)中で、子供達はどんな姿を見せるようになっ てくるか。 教師の意図や願いも含め、単元をどう構想し たかがイメージできるように書くとよいでしょう。

知識や技能の基礎 (豊かな言葉と表現する) 校探険を通して、学校での生活

とが分かる。

いろいろな人や施設と関わってい

思考力・判断力・表現力
(社会に目を向けよりよ

・学校の施設の様子を知り、学校生 活をささえている人々の思いや願い について考えることができる。

・学校の施設を通して、先生友達などに親しみや関心をもって関わり、楽しく生活しようとする。

りかう力・人間性等

持って進んで学ぶ)

ていおうかな」「どうぞよろしく」

ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点
1 が一つ が	4	1 学校で行ってみたい場所NO1を決める。(いってみたい場所はどこか発表し合う。) 【学校探険への意欲付け】 2 行ってみたい場所NO1から学校全体を回り、他学年の教室、特別教室やいろいろな特徴ある場所の存在と、そのおおよその位置を知る。 ここは何のお部屋かな? 先生の部屋はどこだろう?学校中を探検してみたい! 3 その場の特徴あるものを見つけたり、体験したり、関係ある人に話を聞いたりする。 4 友達の話を聞いて気になった場所に行ってみる 本のお部屋 ここには、子供の思いや意識の流れが分かる と見てみたい!	・学り 身り 中カリキュラムで 作成した、教師の 支: かかわりや環境 づくりの視点を意 識して書くとよい でしょう。
2 こうていもたんけんしてみよう 校内の動植物とふれあったり、校 庭の遊具や施設などを正しく使っ たりすることができる。	4	1 校庭での 場所をさがす 2 安全に気 て「校庭 の; ○○がよか・3 探険の結 ていこうとす。 ように書きましょう。	・学・思いや願いが 高まるよう、(教 り、学師の意図した気 り、付きや活動に導 くために)どんな 環境を用意する
3 たんけんしたことをみんなではなそう 見つけたものや気付いたことを教え合うことを通して、学校への愛着や学校生活への自信を深めることができる。	2	 1 かきため 欲を高める。 2 思い出を 張り返る(自分への気付き、自信) か 次の活動への意欲 家庭科室 	・学表にす。 ・気付きの質が 高まるよう、教師 はどのように関 わるか。どんな表 現をさせるか
4 がっこうのまわりをあるいてみよう 見つけたものや気付いたことを 教え合うことを通して、学校への 愛着や学校生活への自信を深め ることができる。	3	1 学校マップを振り返り、学校の周りにも行ってみたいという意欲を高める。 2 いくつかのルートに分け、その通学路を使う子どもが好きな場所を説明しながら学校の近くを歩いてみる。 3 学校探険の時と同様、マップにカードを置きながら、お気に入りになった場所、がんばったことを発表していく。 こんど〇〇の場所にいってみたいなあ。〇〇小学校のことがもっと好きになったみたい!! 53	・ど 活 ・どこで何に気を 付けるか、何を考 ・接 えさせるか で 設定

評価基準(目指す子どもの姿) 【知識や技能の基礎】 学校内の施売やよりに関心をよっているいろな場所へ行 き, 興 【思考 評価基準として、め 学校 礼儀正しく ざす子供の姿を記 話しが の目的など を調・ せばと、思います。 【学び 屋の目的, 学校 場所 3観点でのB規準を 参考に考えてみま 【知譜 しょう。 校庭 いろな場所 へ行 ている。 【思考

【知識や技能の基礎】

動植物

用したりし

見つけたもの・こと・人のこと<mark>。</mark>先生や友だちに意欲的に話 したり,友だちの話を聞こうとし<mark>たりしている</mark>。

校庭にあるものやその場所 動植物とのかかわり方やもの

や施設を使

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

見つけたもの・こと・人のことを<mark>、</mark>かりやすく伝えるために言葉や動作で発表している。

【学びに向かうカ・人間性等】

【学びに向かう力・人間性等】

の使い方に気付いている。

学校のなかの場所や人, 部屋にあるものや部屋の目的, 校庭にあるものや自然, 場所ごとのマナーについて気いている。

【知識や技能の基礎】

通学路にある自然や人々,安全を守るための施設などに 気付く。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

みんなで歩いて発見したことや、自分の地域のお気に入り の自然や人などについて、わかりやすく伝えるために言葉 や動作で発表している。

【学びに向かうカ・人間性等】

通学路の自然や人,安全を守る施設などに関心をもってさがしながら,みんなで歩いたり,自分の地域を見直したりしている。

資料 6

幼小交流体験活動例

資料6

平成○○年度 幼小接続「いちご摘み」

1 日時 平成○○年○月○○日(○) ○時○○分~○時○○分

2 場所 ○○幼稚園

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○組(年長児)○○名

○○小学校 1年生 ○○名

年長の秋にみんなで植えたいちごが、春に実をつけたので、1年生になったぼくたちと年長さんといっしょに収穫したよ。

4 ねらい

幼稚園ねらい	小学校ねらい
・1年生と触れ合いながら、いちごを摘むことを喜ぶ。・秋には自分たちがいちごの苗を植えて来年度1年生になった時にいちご摘みにくることに期待をもつ。	持ちをもつ。

5 タイムスケジュール

時間〔場所〕	活動内容	指導者の動き(留意点)	児童・園児	物等
10分	集合移動	・幼1年生を迎える。・小中間休みが終わったら、 昇降口前に速やかに集合し移動できるように、整列して移動させる。	・ 幼小 時間がきたら、行動する。	
5分	・あいさつ	・ 幼小 全体で挨拶をして校長 先生の話を聞かせる。	幼小挨拶をして校長先生のお話を聞く。 小いちごつみについて話をする。	
15 分	・いちご摘み	・小スムーズに2~3人組が作れるように事前にグルーピングをしておく。 ・効混み合わないようにプランターの間隔を広げておく。 ・効小全員がいちごを摘めるように声かけをする。 ・効小・雨天の場合は屋根のある所にプランターを移動しておく。 ・雨天時はホールで食べる。 ・効小片付ける。	・ 効小 1 年生 2 ~ 3 人 + 年長 児 1 人のグループに分かれる。 ・ 効小 一緒に赤くなっている いちごを見つけて摘む。・ 効小 摘んだいちごを一緒に洗って汚れを落とす。・ 効小 テラスに座って挨拶をして一緒に食べる。 ・ 幼小 お皿を一緒に片付ける。	いちごプラ ンター 皿 1人3粒程 度 ゴミ袋
15分	・交流をする	・ <u>幼小</u> いちご摘みをしたグループでいちごリレーをさせる。 ・小ルールを分かりやすく説明させる。	・効いちご摘みをしたグループの1年生を探す。 ・小いちご摘みをしたグループの年長児を探し呼ぶ。 ・小ルールを分かりやすく説明する。 ・年長児の走るスピードにあわせて一緒に走る。 ・幼小挨拶をする。	ラジカセ いちごの模 型
	・あいさつ	・ 幼小 園長先生の話を聞いて全体で挨拶をさせる。	・小小学校に戻る。	

※ 事前に幼稚園から小学校へ招待状を、事後に小学校から幼稚園にお礼状を送っている。 いちごは1年生が年長時に植えたものを収穫している。

54

平成〇〇年度 幼小接続「給食体験」

平成〇〇年〇月〇〇日

1 日時 平成○○年○月○○日(○)

2 場所 ○○小学校 ○年生各教室

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○○組(左

年間で複数回実施すると、1回目は随分と時間がかかっていた交流 も互いに慣れて、落ち着いて交流 することができるようになるよ

4

4 ねらい

幼稚園ねらい	小学校ねらい
・5年生の配膳の様子を見ることで、給食の準備の	・園児の発達段階を考えて、園児が安心して給食体
仕方を知る。	験ができるように準備を進める。
5年生に教えてもらいながらできる所は自ら進ん	・園児が小学校に親しみ、入学への期待が高まるよ
でやってみようとする。	うに和やかな雰囲気で会食を進めることができる。
・5年生に親しみの気持ちをもつとともに、小学校	
入学への期待を高める。	

5 タイムスケジュール

	ムスクン			,
時間	活動内容	指導者の動き(留意点)	児童・園児の動き	準備物 等
	移動	・ <u>幼</u> 引率 ・小班ごとに給食が食べられるように机と椅子を移動	・12:05 に始められるよ うに、5 年生の各教室	園児用 椅子
		・ <u> 小</u> 班ことに福良が良べられるように机と何子を移動 させておく。	に移動しておく。	何丁
		・小一つ一つの行動や食事に時間がかかると予想されるので、早目に準備を始めさせる。		
5分	グループ	・ <u>幼小</u> スムーズにグループに入ることができるように 声かけをする。	・小園児担当の児童が自分の班の位置に園児	座席表
	分け	・移動や着席がしやすい様にグループ名と個人名など 黒板等に示しておく。	を連れて行く。	
15分	給 食 配膳	・小幼 衛生面に配慮し、園児が安全に給食配膳できるように目配り、気配りをする。	・小園児といっしょに 机上の準備や手洗い等 を行う。・小園児の発達段階を	
35 分	給 食 開始	あいさつ ・ <u>幼</u> 不安のある幼児のそばに付き、寄り添うようにす	考えて、一緒に給食配膳 を行う。 ・小 園児の食べられ	
		る。 「ロウコの人がナンルムかと、かしてものよみ原図を	る量について個々に声かけをするなど配慮す	
		・小自己紹介等をさせながら、楽しく和やかな雰囲気で会食できるような雰囲気作りを心がけさせる。	る。	
		・小園児が小学校に親しみをもち、来年度の入学に希望がもてるように、早く食べ終わった園児のために読み聞かせなどを考えさせておく。	・小食べ終わった後も、 園児と楽しく関わりを もつことができるよう 読み聞かせをするなど	紙芝居、 絵本等
5分	後 片付け	・どこに何を入れるのか等を見て分かるように支援する。	の工夫をする。 ・	
		・あいさつ	する。 ・幼幼稚園に戻る。	
		·引率 55		

平成〇〇年度 幼小接続「絵本の読み聞かせ」

☆○○年○月○○日

平成〇〇年〇月〇〇日(〇) 〇時〇分 1 日時

2 場所 ○○小学校 5年生各教室

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○○組(年長児)○○名 わたしたちの好きな絵本を事前に聞い てくれたり、お兄さんやお姉さんが小 さい頃に好きだった絵本を選んでくれ たりしててたのしかったよ。

4 ねらい

幼稚園ねらい	小学校ねらい
・5年生に読み聞かせをしてもらうことで小学校入 学への期待や親しみの気持ちをもつことができる。	・園児に分かりやすく、情景を思い浮かべられるように読み聞かせをしたり、園児達が安心して小学校で過ごせるように声をかけたり、世話をしたりすることができる。

5 タイムスケジュール

時間	活動内容	指導者の動き(留意点	児童・園児の動き	準備物等
	移動	・効引率・小班ごとに活動しやすい と椅子を移動させておく。	・時間に始められるよう ように机 に、5年生の各教室に移動 しておく。	園児用椅子
3分	あいさつ	・ <u>幼小</u> スムーズにグループ とができるように声かけをす ・グループ毎の配置を黒板 示しておく。	する。 分の班の位置に園児を連	座席表
	自己紹介	The table of t	 小代表児童が挨拶をする。 小自分たちから順番に自己紹介をする。 幼児童をまねて自己紹介する。 	
15 分	読み聞かせ	・小事前指導として、園児 も参加できるような読み聞えるように、問い掛けやクイエ夫を準備させておく。 ・ 対落ち着いて絵本を見られまする。 ・ 対保育者も一緒に絵本を見られるように、別様の中で見られるように、	かせをす 場面では補足を入れて説 ボなどの 明したり、質問したりする。 れるよう ・小園児も参加できるようにクイズを出したり、声 見て、園 楽しい雰	
2分	ことば遊び クイズ しりとり お絵かき など		・小読み終わった後も、早 ロことば遊びやクイズを して、園児と楽しく関わり をもつことができるよう 工夫する。	
	あいさつ	・あいさつ	小代表児童が挨拶をする。幼お礼のあいさつをする。	
		•引率 56	る。 ・ <mark>幼</mark> 幼稚園に戻る。	

平成29年度 幼小接続「おもちゃづくり」

年 月 日

1 日時 平成○年○月○日(○) ○時○分~○時○分(○校時)

2 場所 〇〇小学校 体育館

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○組(年長児)○○名 ○○保育所

4 ねらい

お兄さんやお姉さんに楽し い遊びを教えてもらって、さ っそく保育所でもやってみ たよ。年中児さんや年少児さ んにも教えてあげたよ。

幼稚園・保育所のねらい・2年生におもちゃの作り方を教えてもらい、でき

・2年生におもらやの作り方を教えてもらい、できたおもちゃで一緒に遊ぶことにより、小学校児童への親しみの気持ちと、小学校入学への期待をもつ

・園に持ち帰って再度遊んだり、年中児、年少児へも教えてあげようという意欲をもったりする。

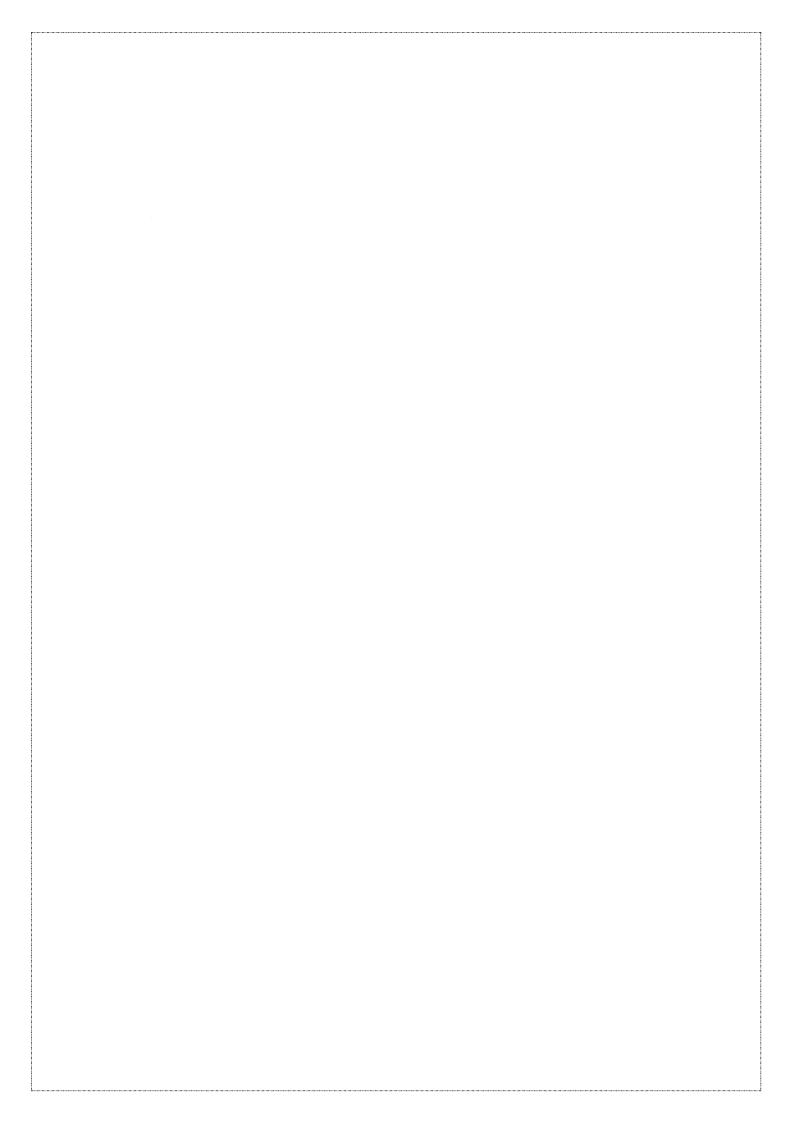
・園児に分かり、 ところは、手伝って*w*。 しようとする態度を育む。

ばしく接

5 タイムスケジュール

時間〔場所	活動内容	指導者の動き(留意点)	児童・園児の動き	準備物等
	・移動	・効引率・小グループごとに材料などを分けておく。	・予定時刻に始められるように、体育館前に移動しておく。	入場用のアーチ
10分	・あいさつ	・ <u>幼</u> 事前に決めておいた番号 のところに並ばせる。	小代表児童が挨拶をする。小今から何をするのか、説明をする。	
30 分	「新聞紙けんだま」の制作	・小・幼 正しく作れているか、 見て回り、困っているグルー プヘアドバイスをする。 ・小園児に活動させられるように、児童が手を出しすぎないようにさせる。 ・小当日休みの園児の分も制作させ、持って帰ってもらえるようにする。	・小新聞紙けん玉の作り方を説明しながら、園児と一緒に制作する。 ・幼児童に作り方を教えてもらいながら、制作する。	新聞紙 9 枚 輪ゴム 2 本 タコ糸 1 本 (90cm) かざりの色紙 セロテープ のり
10 分	新聞紙けん玉であそぶ	・ <u>小・幼</u> 時間内に終わってい ないグループへのフォローを する。	' '	
5分	・あいさつ	小時間になったら、はじめの隊形に並ぶように時間を意識させて、自分達で行動できるようにさせる。	・小代表児童が挨拶をする。	
	・解散	・幼引率、園に戻る	・小お見送りのアーチを作る。・幼幼稚園に戻る。	退場用のアーチ
		57		

		<u>平</u> 月	成 年度 幼小	接続	<u> </u>	
						平成〇〇年〇月〇日
1	日時	平成〇〇年〇	月〇〇日(○) ○時〇〇分	·~()	寺○○分	
2	場所	○○幼稚園				
3	対象園児	○○幼稚園	○○組(年長児)○○名			
		○○小学校	○年生 ○○名			
4	ねらい					
		幼稚園は	25N		小学校ねら	V)
_	h /) ¬ Ь	32 3				
5	タイムスケ		上海本の利よ (577 年 上	\	旧本・国田の科と	With title below to be
	時○分	活動内容	指導者の動き(留意点)	児童・園児の動き	準備物等



幼小接続 交流シート _{平成 年 月 給食体験)} 日 () 活動内容

	保育所(園)・幼稚園(幼児)	小学校(児童)
ねらい	 ・5年生の配膳の様子を見せてもらい、給食の準備の仕方を知る。 ・5年生に教えてもらいながらできる所はやってみようとする。 ・5年生に親しみの気持ちをもつ。 	・園児が安心して給食体験ができるように、給食準備の注意点やマナーを教える。 ・園児の発達段階を考えて配慮することで自らの成長を実感する。
指導場面における配慮事項	・事前にメニューをもらい、アレルギー幼児の保護者に連絡をとる。 ・当日は衛生面に充分配慮し、手洗いうがいを 徹底する。 ・5年生の児童の話をよく聞けるように落ち着い て参加する。 ・不安のある幼児のそばに付き、寄り添うように する。	する。 ・園児の発達段階に配慮しながら、給食準備を手伝うようにさせる。 ・園児が小学校に親しみを持ち、来年度の入学に希望が持てるようにゲームなどを考えさせる。
活動後の気づき・反省	・事前に量を少なめにしてもらえるように伝えていたので、園児も無理なく食べられた。 ・配膳も5年生が一人一人についてくれたので、自分の分の配膳ができて良かった。 ・5年生が園児に親しみをもって話をしてくれたので、安心して給食を食べたりゲームに参加したりできた。 ・薪エアロで一緒に動けて子ども達もとても楽しんでいた。	・園児にできることは、させてあげるようにした方が良いので、小学生は補助という形でついたのが良かった。メニューに汁物があった場合、別で配膳することが必要。 ・手洗い場が混雑していたので時間をずらすか、図工室の手洗い場を使うなどの工夫をした方がよい。 ・和やかな雰囲気で、5年生も園児も過ごせていた。
成果	・給食を一緒に食べて話をする中で、小学校や5年生に親しみをもつことができた。 ・小学校への期待が膨らんだ。	・園児のお世話をすることによって、自分の成長を実感したり、発達段階に気を配りながら接したりすることができた。
課題	・園児がどうしていいかわからず、一人になって しまうことがあったので、気に掛けてもられるように声かけしていきたい。・終了時刻がクラス毎に差があったので迷惑になったかも知れない。	・こちらが考えている以上に一つ一つの行動や食事に時間のかかる子がいたので、時間に余裕をもって行動させるようにしたい。

幼小接続 交流シート

平成

年

月

日(

)

活動内容 (給食体験) 保育所(園)・幼稚園(幼児) 小学校(児童) 小学校のねらいは、来年度小学校へ •5年 て給食 合食の 保幼のねらいは、来年度小学校 入学する保幼の子どもたちが期待感 準備(へ入学することへの期待感や安 ね .5年 やって や安心感をもつことができること、小学 が高まる 心感をもたせることができるよう ら Ha っができ 生としての自覚を引き出せるような設 設定する。 LJ •5年 小学校は 定を心がける。 入学への期待を局める。 事前にメニューをもらい、アレルギー幼児の保・衛生面に配慮し、気持ちよく食事ができるように 指 獐 護者に連絡をとる。 する。 場 園児の発 **に配慮しながら、給食準備を手 個別の配慮事項については日常と同じように、 うようど 面 保護者とも連携を密にとり計画する。幼小が互い 刨児 12 園児の発達段階を小学生もある程度理 お に連絡を取り合い、共通理解する必要がある。 望; 解し、子どもたちが主体的に活動ができ け 当日は、特に配慮を必要とする幼児、児童につ るように各自の役割分担等丁寧に指導 る いては、複数の目で様子を観察し、何かの時の する。 配 役割分担を考えておく。チェックリストがあると便 慮 利。 事 項 ・園児にできることは、させてあげるようにした方 事前に量を少なめにしてもらえるように伝えて **無理なく食べられた。 が良いので、小学生は補助という形でついたの いたので - 配 が良かった。メニューに汁物があった場合、別で 活 ・子ども一人一人の変化を丁寧に捉え で 動 ・児童は小学生として生き生きと活動す •5 すか、 後 ることができていたか。 の 方が ・園児は楽しく参加できていたか。 の ・児童も楽しく活動に参加できていたか。 た 気づ 小学生とコミュニケーションをとること ・活動の準備や活動の流れに漏れや落 - 莱 ナてい ができていたか。 ち度はなかったか。 き ・子ども一人一人は小学校入学に対す 配慮を必要とする児童はどうだったか。 る期待感、安心感をもつことができたか。 反 省 給食を一緒に食べて話をする中で、小学校や ・園児のお世話をすることによって、自分の成長 5年生に親しみをもつことができた。 を実感したり、発達段階に気を配りながら接した 小学校への期待が膨らんだ。 さることができた。 成 果 設定したねらいは達成されたかどう かの検証を保幼小一緒に振り返り、 次の交流につなげる。 園児がどうしていい ている以上に一つ一つの行動や食 特に課題となった点については、そ しまうことがあったの **かる子がいたので、時間に余裕を** の原因と今後の指導について具体 うに声かけしていきが るようにしたい。 的に共通理解を図る。 課 終了時刻がクラス 題 なったかも知れない。

幼小接続 交流シート

		平成	年	月	日()
活動内容	()		

	保育所(園)・幼稚園(幼児)	小学校(児童)
ねらい		
指導場面における配慮事項		
活動後の気づき・反省		
成果		
課題		

おわりに

本市では、これまでも隣接した立地条件を活かして、保幼小の連携については体験活動を中心に行われてきました。そのような中、幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂に伴い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化・共有化が図られ、また、新小学校学習指導要領におきましても、生活科を中心に、一貫した学びの充実が求められるようになったことから、幼小の接続期に焦点をあて、「幼小接続カリキュラム」を作成することとなりました。

幼児期の教育と小学校教育のそれぞれが求められている目的と役割を踏まえ、幼児期に育まれた力を小学校の学習に活かすための「アプローチカリキュラム」や「スタートカリキュラム」、実践事例集に、各校園所が実態に応じたアレンジを加え活用できるよう作成を進めてまいりました。今後もバインダー方式により、実践事例を更新・積み上げていくことで充実を図りたいと考えております。

後になりましたが、今回の作成にあたっては、各保育所・幼稚園・小学校の先生方には、保育・授業公開や資料収集等、何かとご協力いただきましたこと、この場を借りましてお礼申し上げます。

平成30年3月



幼小接続カリキュラム作成委員会

委員長 田辺東小学校 校長 小長谷 直樹

副委員長 田辺東幼稚園 園長 眞下 佐織

三山木保育所 所長 武藤 伸子

薪小学校 教務主任 鐘 築 栄 滋

田辺小学校 教務主任 南部 智彦

三山木小学校 教諭 福島 由喜

河原保育所 所長補佐 吉川 明子

大住幼稚園 教頭 浅川 美智子

三山木幼稚園 教頭 松浦 尚子

事務局 教育委員会 総括指導主事 中井 達

指導主事 伊家京子

指導主事 芹井 利子

幼小接続カリキュラム

平成30年3月 発行

京田辺市教育委員会

7610-0393

京都府京田辺市田辺80

TEL 0774-64-1325

FAX 0774-64-1390

京田辺市教育委員会ホームページにも掲載しています。

http://www.kyotanabe.ed.jp/nc24/csso/htdos/